

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条第1項に基づく

中津市教育委員会施策の  
点検・評価に関する報告書  
(平成27年度対象)

平成28年8月19日

中津市教育委員会



## 目 次

I	はじめに	1
1.	目的	1
2.	点検・評価の実施方法等	1
(1)	法定事項	1
(2)	実施方法	1
3.	自己評価及び総合評価の判定基準	2
(1)	自己評価について	2
(2)	総合評価について	2
II	点検・評価	3
1.	施策名と評価一覧	3
2.	評価の分析	6
3.	施策毎の目標、達成状況等	7
(1)	表の見方	7
(2)	各施策の内容	8
III	学識経験を有する者の知見	48
IV	おわりに	52

## I はじめに

### 1. 目的

平成 19 年 6 月に一部改正（平成 20 年 4 月 1 日施行）された「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」（昭和 31 年法律第 162 号）第 26 条第 1 項の規定により、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理・執行状況について点検・評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出するとともに、公表することとされました。

そこで、中津市教育委員会では、教育委員会が立てた基本方針にそって具体的な教育行政が執行されているかについて、教育委員会自らが事後にチェックし、今後の効果的な教育行政の推進に資するとともに、市民に対する説明責任を果たすため、この点検・評価を実施し、報告書にとりまとめました。

### 2. 点検・評価の実施方法等

#### (1) 法定事項

点検・評価の実施については、次の 4 点が法定事項になっています。

- ①毎年実施すること。
- ②教育委員会の権限に属する事務(教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務を含む。)の管理・執行状況について点検・評価を行うこと。
- ③点検・評価の実施に当たっては、学識経験を有する者の知見の活用を図ること。
- ④点検・評価結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに公表を行うこと。

#### (2) 実施方法

##### ①対象期間

平成 27 年度の管理・執行状況

##### ②点検・評価の項目について

中津市教育委員会では、市教育行政の長期的、総合的な指針として、第四次中津市総合計画（平成 20 年 12 月策定）及び中津市教育振興基本計画（平成 21 年 3 月策定、平成 27 年 5 月改訂）に基づき各種施策を推進しており、平成 27 年度は重点的な 42 項目について点検・評価を行いました。

##### ③学識経験を有する者の知見の活用について

教育に関し学識経験を有する者の知見活用に当たっては、教育委員や現職教員・事務局職員ではない者で、教育に関して公正な意見を述べるのが期待できる人の知見を活用しました。

##### ④報告・公表方法

点検・評価結果に関する報告書は、定例市議会（文教経済委員会）に提出し、その後、中津市教育委員会のホームページに公表します。

### 3. 自己評価及び総合評価の判定基準

#### (1) 自己評価について

事業主管課長が、適応性・効率性・達成度の 3 つの着眼点で、5 段階で自己評価しました。

評価項目	着 眼 点
適応性	①市民ニーズや社会の変化に対応しているか
	②同じ目的を達成するために他に手段はないか
効率性	③内容の見直しや重点化を行っているか
	④事業の円滑な推進のための調整を行っているか
達成度	⑤当初の目標どおりに進めることができているか

### 【ランク説明】

ランク	着 眼 点
5	達成（80%以上）
4	着実に進捗（相当程度達成・79～60%）
3	やや不十分（59～40%）
2	不十分（39～20%）
1	抜本的見直しが必要（19～0%）

### （2）総合評価について

教育委員会及び課長級で構成された中津市教育委員会施策評価実行委員会が、目標、達成度、自己評価を総合的に判断して、5段階で総合評価をしました。

ランク	着 眼 点
A	優れた取り組みが多く、十分成果が上がっている
B	優れた取り組みがいくつかあり、成果が見える
C	一定の成果が見られるが、更なる取り組みを要する
D	成果が上がってなく、改善を必要とする
E	抜本的見直しが必要

## II 点検・評価

以下に、平成 27 年度の具体的な施策内容、評価結果などについて報告します。

### 1. 施策名と評価一覧

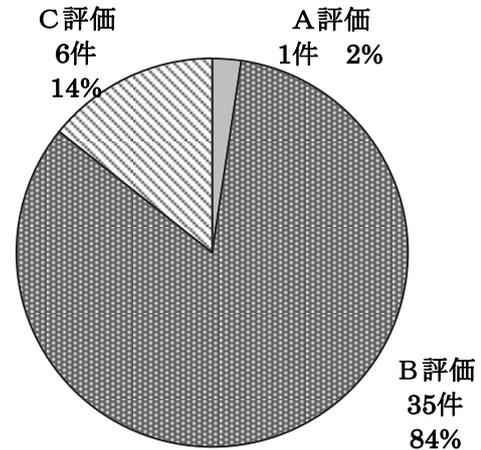
施策別 基本目標	基本姿勢	施策名	自己 評価	総合 評価	所管課
教育委員会の充実	教育委員会の活性化	1 教育委員会活動の充実	4	B	教育総務課
	教育行政の推進	2 市民等の意見・要望の反映	4	B	学校教育課
施設設備 (学校施設の安全・安心な 環境整備)	学校施設耐震化対策及び学習環境の整備	3 耐震補強及びトイレ設備改修、空調設備整備の計画的推進	4	B	教育総務課
学びの基礎を培う学校教育 (一人ひとりを大切にす る教育)	国際化教育	4 国際化に対応できる人材育成	4	B	学校教育課
	幼(保)小中(高)連携	5 幼稚園教育の充実	4	B	学校教育課
		6 小1プロブレム・中1ギャップの改善	4	B	学校教育課
	学力向上対策	7 授業改善による学力向上対策	4	B	学校教育課
		8 小中連携による学力向上対策	4	B	学校教育課
		9 学びのススメ塾・学びのススメ英検塾	4	B	学校教育課
		10 地域の教育資源の活用推進	4	B	学校教育課
		11 情報教育の推進	3	C	学校教育課
	不登校ゼロの学校づくり	12 不登校未然防止と適応指導教室の充実	4	B	学校教育課
		13 いじめ問題対策	4	B	学校教育課
	特別支援教育の充実	14 教育補助員の拡充	4	B	学校教育課
	授業力向上	15 教職員研修の充実	4	B	学校教育課
学校適正規模・適正配置の指針検討	16 小規模小学校適正配置の検討	3	C	耶馬溪教育 C 教育総務課	

施策別 基本目標	基本姿勢	施策名	自己 評価	総合 評価	所管課
学校と家庭の連携	家庭教育の充実	17 P T Aとの連携強化	3	C	学校教育課
		18 生活習慣、学習環境、 家庭学習	3	C	学校教育課
		19 家庭教育力の向上	3	C	社会教育課
施設設備 (その他の施設整備)	コミュニティー センター	20 コミュニティーセン ターの計画的建設	4	B	社会教育課
学びつづける生涯学習 (郷土に誇りを持つ市民)	中津市地域協育 振興プラン推進 事業	21 中津市地域協育振興 プラン推進事業	4	B	社会教育課
		22 放課後こども教室 (土曜教室、放課後 チャレンジ教室)	4	B	社会教育課
	「郷土愛教育」循 環システムの構 築	23 ワンパク！たんけん 中津	4	B	社会教育課
		24 なかつキッズ・サイ エンス	4	B	社会教育課
		25 三保小学校人形劇ク ラブの育成	4	B	社会教育課
		26 福澤諭吉記念事業	4	B	社会教育課
		27 公民館活動における 地域のふるさと学習	4	B	社会教育課
		28 中津市生涯学習大学 「中津学」	3	C	社会教育課
		29 なかつ学びんびっく (子ども中津検定)	4	B	社会教育課
		30 偉人シリーズ、マン ガ本の発刊	4	B	文化財課

施策別 基本目標	基本姿勢	施策名	自己 評価	総合 評価	所管課
文化芸術の香るまち (文化・芸術活動の推進)	図書館の充実	31 利便性の向上	5	A	小幡記念 図書館
		32 学校図書館との連携	4	B	小幡記念 図書館
	文化・芸術活動の推進	33 芸術文化事業 (木村記念美術館)	4	B	小幡記念 図書館
	歴史、文化の継承	34 展示施設の計画的な 整備と利用促進	3	B	文化財課
	旧城下町地区史跡 等活用	35 史跡等整備工事、説 明板・誘導サイン設 置、中津城イベント 実施	3	B	文化財課
健康づくり (生涯にわたるスポーツ 振興「心豊かで健康な生活 を」)	スポーツ施設の充 実	36 スポーツ施設の計画的な 整備	4	B	体育・給食課
		37 スポーツ施設の利用 促進	4	B	体育・給食課
	スポーツの振興	38 生涯スポーツの推進	4	B	体育・給食課
	学校保健・体育の充 実	39 学校保健・体育環境 の充実	4	B	学校教育課
健康な体づくり (安全安心でおいしい学 校給食)	地産地消の推進	40 生産者(団体)との 連携	4	B	体育・給食課
	食育の推進	41 児童生徒、保護者へ の啓発	4	B	体育・給食課
	施設・設備の改修	42 調理場機械、器具等 の更新	4	B	体育・給食課

## 2. 評価の分析

教育委員会及び課長級で構成された中津市教育委員会施策評価実行委員会が、目標、達成度、自己評価を総合的に判断して、5段階で総合評価したところ、A評価1件、B評価35件、C評価6件となりました。



ランク	着 眼 点
A	優れた取り組みが多く、十分成果が上がっている
B	優れた取り組みがいくつかあり、成果が見える
C	一定の成果が見られるが、更なる取り組みを要する
D	成果が上がってなく、改善を必要とする
E	抜本的見直しが必要

各課では教育の向上を図るために、毎年より高い意識を持って施策の目標設定を行っており、その達成に努めています。その結果、評価ランクの割合は、A評価への到達は非常に厳しくなっており、1施策のみとなっています。

A評価を受けた施策は、「図書館の充実－利便性の向上」で、利用者の利便性を考慮した開館時間の変更に取り組んだことや、図書館電算システムの更新により自動貸出機の設置また図書館内の空調及びトイレ改修、駐車場の増設など図書館利用者に対しての環境整備が格別に向上する取り組みが行われました。

また、B評価の割合が昨年の31施策から35施策となり着実に成果を上げてきている優れた取り組みが評価されています。

今後も、より高い目標の達成を目指し、施策の設定及び評価を継続していきたいと考えています。

### 3. 施策毎の目標、達成状況等

#### (1) 表の見方

表の項目について、大、中、小とありますが、これは、それぞれ大分類（施策別基本目標）、中分類（基本姿勢）、小分類（施策名）を指しています。

大 分 類		中 分 類	
1	教育委員会の充実	A	教育委員会の活性化
		B	教育行政の推進
2	施設設備（学校施設の安全・安心な環境整備）	C	学校施設耐震化対策及び学習環境の整備
3	学びの基礎を培う学校教育 （一人ひとりを大切にする教育）	D	国際化教育
		E	幼（保）小中（高）連携
		F	学力向上対策
		G	不登校ゼロの学校づくり
		H	特別支援教育の充実
		I	授業力向上
J	学校適正規模・適正配置の指針検討		
4	学校と家庭の連携	K	家庭教育の充実
5	施設設備 （その他の施設整備）	L	コミュニティーセンター
6	学びつづける生涯学習 （郷土に誇りを持つ市民）	M	中津市地域協育振興プラン推進事業
		N	「郷土愛教育」循環システムの構築
7	文化芸術の香るまち （文化・芸術活動の推進）	O	図書館の充実
		P	文化・芸術活動の推進
		Q	歴史、文化の継承
		R	旧城下町地区史跡等活用
8	健康づくり （生涯にわたるスポーツ振興「心豊かで健康な生活を」）	S	スポーツ施設の充実
		T	スポーツの振興
		U	学校保健・体育の充実
9	健康な体づくり （安全安心でおいしい学校給食）	V	地産地消の推進
		W	食育の推進
		X	施設・設備の改修

(2) 各施策の内容

No	分類			目 標
	大	中	小	
1	1	A	教育委員会活動の充実	<p>定例教育委員会は毎月開催、臨時教育委員会、教育委員懇話会及び教育委員勉強会は、必要に応じて随時開催している。</p> <p>年間2回、定例教育委員会を移動教育委員会として、各支所輪番で開催している。</p> <p>(平成26年度 7月…耶馬溪支所、12月…山国支所)</p> <p>また、定例教育委員会開催後には、内容をホームページで紹介している。</p> <p>今までの取り組みは継続しつつ、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○学校訪問と別に小中学校長やPTAとの意見交換会の開催</li> <li>○社会教育委員など各種委員会との意見交換会の開催</li> <li>○先進地視察など研修機会の拡充を図る。</li> </ul>

達成状況	自己評価	総合評価	所管課
<p>○毎月1回の定例教育委員会を開催し、会議に諮られた議案(42件)及び報告(23件)等について、教育委員による活発な意見や質疑を行うとともに、諮られた案件について指導・指示し、案件の可決・了承を行った。また、喫緊の案件については、その都度、臨時教育委員会を開催し(2回)、速やかにその対応を実施した。</p> <p>○教育委員会開催時には、原則公開として開催予定を広報するとともに、傍聴希望者(12人)については入室を許可した。また、様々な方が容易に傍聴できるよう、市庁舎外での会議開催(耶馬溪支所 7/26, 本耶馬溪支所 12/27)にも取り組むと共に、会議録の開示希望者については原則公開した。</p> <p>○教育行政を推進するにあたり必要に応じ、事務局等が行う事業の事前説明を求めると共に進捗状況等において、課題や対応・目途等の説明を求め、事業の現状把握と方向性の指導・指示を行った。</p> <p>○5月と11月に、教育委員が分担して、幼稚園、小・中学校を訪問し、各園・学校の現状や取り組みを視察し意見を交換した。</p> <p>○市PTA連合会(2/19)との意見交換会を実施した。</p> <p>○大分県市町村教育委員連合会総会(豊後大野市:6/2)に参加し、「コミュニティ・スクールを核とした地域とともにある学校づくりの推進」を受講した。また、久留米大学附設中学校・高等学校を視察(11/10)し、研修を行った。</p> <p>○中津教師義塾～KAIZEN 研修～に教育委員が講師として講演を行った。</p> <p>○従来の「市報なかつ」、ホームページでの告知に加え、「例月行事予定表」に掲載を行った。また、移動教育委員会開催の際には、別途、地域に回覧板でお知らせを行った。</p> <p><b>課題及び来年度に向けての方向性</b></p> <p>○平成27年度から教育総合会議が設けられ、市長との対話の機会が増えることとなり、市長と教育委員会が相互に連携を図りつつ、より一層民意を反映した教育行政を推進していく。</p> <p>また、移動教育委員会の在り方について、今後は一層住民が傍聴しやすくなるよう検討して行く。</p>	4	B	教育総務課

No	分類			目 標
	大	中	小	
2	1	B	市民等の意見・要望の反映	<p>開かれた学校づくりや市の教育行政を推進するとともに、保護者や地域との積極的な連携を図るため、以下のことに取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各学校の自己評価及び学校関係者評価を積極的に公表する。</li> <li>○中津市教育委員会のホームページを一層充実させる。</li> <li>○各学校ホームページの更新徹底と情報セキュリティー保持について適切に指導する。</li> <li>○地域住民や保護者及び学校現場からの意見や要望に対して真摯に対応し、関係部局とも連携を取りながら対処する。</li> </ul>
3	2	C	耐震補強及びトイレ設備改修、空調設備整備の計画的推進	<p>空調設備の設置及び非構造部材の耐震化を実施し、安全で安心して学べる教育環境の整備を図る。また改築や大規模改造事業に併せて、トイレ設備の洋式化を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○旧下毛地区の小中学校（耶馬溪中学校除く）屋内運動場照明設備補強の実施。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校（真坂・山口・秣・深水、樋田、上津、城井、下郷、津民、山移、三郷）</li> <li>・中学校（三光、本耶馬溪、山国）</li> </ul> </li> <li>○空調設備設置の実施 <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園（豊田：改築工事 トイレ改修含）</li> <li>・小学校（南部：大規模改造工事 トイレ改修含）</li> <li>・中学校（豊陽・中津・東中津・今津・三光・本耶馬溪・山国）</li> </ul> </li> </ul>

達成状況	自己評価	総合評価	所管課
<p>○各学校は学校評議員制度を効果的に活用し、保護者や地域のからの意見を把握するなど、学校運営の改善に努めた。 ・学校評議員会開催回数（21校で年間3回以上実施）</p> <p>○各中学校において、学校・保護者・地域・市教委の協働を推進する「学力向上懇談会」を実施した。</p> <p>○学校は、積極的な情報提供のために学校ホームページの更新を月1回程度行った。</p> <p>○市教委として、市ホームページを活用して学校行事等での子どもたちの活動を中心に積極的な情報提供を行った。</p> <p><b>課題及び来年度に向けての方向性</b></p> <p>○「学力向上懇談会」を継続実施するとともに小学校への拡大を図り、学校関係者評価の充実を図る。</p> <p>○地域や保護者との連携促進のため、学校評価の公表を含め、学校のホームページをより一層充実させる。 →更新状況の定期的確認及び情報セキュリティ対策</p> <p>○地域や保護者の要望や意見に対しては、関係部局とさらに連携を取りながら前向きに対処していく。</p>	4	B	学校教育課
<p>○非構造部材耐震化については、屋内運動場照明設備等の補強及び幼稚園における照明設備の改修を実施し、小学校1校を除き全部解消した。 （解消されていない小学校1校については、平成27年度国の補正対応事業となったため、平成28年度実施となり解消見込み。）</p> <p>○空調設備設置については、国庫補助金を活用して行う計画としていたが、国庫事業未採択となったため、市単独事業として整備した。このことにより中学校全校において空調設備が設置された。 また、幼稚園においても改築と併せ空調設備を設置した。 （小学校（南部）については、平成27年度国の補正対応事業となったため、平成28年度に実施となった。）</p> <p><b>課題及び来年度に向けての方向性</b></p> <p>○実現可能な計画となるよう見直しを随時行いつつ、要望活動や積極的な情報把握を行い、可能な限り有効な財源の活用を模索し、学校施設整備の早期着手に努めていく。</p>	4	B	教育総務課

No	分類			目 標
	大	中	小	
4	3	D	国際化に対応できる人材育成	<p>国際化に対応できる人材育成のため、幼稚園から中学校までALTやNETを活用して、ネイティブの英語に触れる機会を増やす。「毎日英会話に親しむ環境づくり」を推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○授業での外国語活動 <ul style="list-style-type: none"> <li>→幼稚園（週1回）</li> <li>小学校1～4年（月1回）、小学校5～6年（週1回）、</li> <li>中学校1～3年（週1回程度）</li> </ul> </li> <li>→各教科、領域でのALTやNETの積極的活用</li> <li>○授業以外での外国語活動 <ul style="list-style-type: none"> <li>→「豊田モデル」を市内小学校へ拡大（絵本読み聞かせ、ワンポイント英会話、英語ひろば、英語ルームの整備など）</li> <li>→「今津中モデル」を市内中学校へ拡大（英検への取り組み、校内英語スピーチ大会など）</li> </ul> </li> <li>○長期休業中のALTによる活動 <ul style="list-style-type: none"> <li>→「中津わくわく英語広場」の充実</li> </ul> </li> <li>○グローバルリーダー育成のため短期留学の実施</li> <li>○グローバルな人材育成のための連携体制構築 <ul style="list-style-type: none"> <li>→「小中高連絡協議会」の開催</li> </ul> </li> </ul>
5	4	E	幼稚園教育の充実	<p>幼稚園教育、預かり保育の充実を図り、保護者から信頼される魅力ある幼稚園教育を実践する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○魅力ある教育課程の編成、保育所や小学校との連携交流、体験活動の重視や地域資源（ひと・もの・こと）の活用、保護者との連携による基本的な生活習慣を確立する。</li> <li>○研修内容を充実し、教職員の指導力及び資質の向上を図る。</li> <li>○就園率向上を図るため、全11園にて18:00までの預かり延長を継続する。</li> <li>○教育活動をホームページで紹介し、入園受付や説明会をさらに工夫し、啓発活動を推進する。</li> <li>○給食実施に伴い食育の推進を図る。</li> </ul>

達成状況	自己評価	総合評価	所管課
<p>○授業での外国語活動 ALT (NET) を活用し、幼稚園 (週 1 回)、小学校 1~4 年 (月 1 回)、小学校 5~6 年 (週 1 回)、中学校 1~3 年 (週 1 回程度) の活動を計画的に実施する等、各教科、領域での取り組みを実践することができた。</p> <p>○授業以外での外国語活動 豊田小での実践 (「豊田小モデル」 (英語絵本読み聞かせ、ワンポイント英会話、昼休みの「英語ひろば」、英語ルームの整備など) 今津中での実践 (「今津中モデル」 (学びのススメ英検塾への積極的参加、英検受験の意識高揚、校内英語スピーチ大会の実施など)</p> <p>○中津わくわく英語ひろば 夏季休業中 (中学生 20 名参加) …ジュニアグローバルリーダーとの交流、英語ゲーム、スカイプ交流など 冬季休業中 (小学生 26 名参加) …国際交流ワークショップなど</p> <p>○短期留学の実施 7/11~19 (8 泊 9 日) …ジュニアグローバルリーダーの育成 (現地校での体験授業、交流など)</p> <p>○小中高連絡協議会の開催 6/1、7/7、9/4 の 3 回実施 (学力向上、グローバル人材育成など)</p> <p><b>課題及び来年度に向けての方向性</b></p> <p>○「豊田小モデル」を市内小学校へ、「今津中モデル」を市内中学校へ一層拡大させる。</p> <p>○グローバルリーダー育成のため短期留学を継続実施する。</p> <p>○「小中高連絡協議会」の構成組織を市内短大まで拡大させ、より効果的な連携体制を構築し、グローバル人材の育成を推進する。</p>	4	B	学校教育課
<p>○各幼稚園で小学校との交流を実施した。一部の保育所 (園) では、小学校への合同見学会などが実施されるようになった。 (連続性のあるカリキュラム作成、遠足・運動会での交流、小学校体験、職員間の情報共有など)</p> <p>○年 2 回、市主催の研修会を開催した。</p> <p>○平成 27 年度実績 (4 月 1 日) →就園率 46.8% (前年比 1.4%増)、預かり率→64.1% (前年比 3.0%増)</p> <p><b>課題及び来年度に向けての方向性</b></p> <p>○豊田幼稚園で、2 年教育の試行を実施する。</p> <p>○子ども子育て会議に幼児教育専門部会を位置づけ、定期的で開催する。 ・今後の幼児教育の在り方や 2 年教育の試行検証等 ・「中津市幼児教育振興プログラム」の策定</p> <p>○子育て支援の一層の充実を図るため、全 11 園にて 18:00 までの預かり延長及び給食の実施を継続する。</p> <p>○預かり保育は、夏休み、冬休み実施に加え、春休みの期間の実施を継続する。</p> <p>○「読み聞かせ」活動を実施する。 ・学校司書による月 2 回程度の読み聞かせを行う。</p> <p>○幼稚園のホームページ作成を一層充実させる。</p>	4	B	学校教育課

No	分類			目 標
	大	中	小	
6	3	E	小1プロブレム、中1ギャップの改善	<p>幼保小中の円滑な接続を図り、小1プロブレムの発生を抑え、中1ギャップを解消する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○幼稚園・小学校の接続を図る教育課程の編成を実施し、その効果検証を図る。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校1年教育課程へのスタートカリキュラム位置づけ</li> </ul> </li> <li>○「小1プロブレム対策推進事業」の成果を市内に還元する。</li> <li>○各中学校ブロックでの小中連携の内容充実を図る。</li> </ul>
7	3	F	授業改善による学力向上対策	<p>生徒指導の3機能を生かした「課題解決型授業」を推進する。(中学校での授業改善) また、低学力層の底上げ、基礎基本の定着、活用する力の育成を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○研究主任会議を一層充実させ、各学校の校内研修を活性化させる。</li> <li>○教育課程研究協議会で教科研究を充実させる。</li> <li>○校内研修会等への指導主事、学校指導専門員の積極的な参加による指導・助言を継続する。</li> <li>○学力向上支援員6名、習熟度別少人数指導推進員5名などにより授業改善の推進を図る。</li> <li>○学習補助員(11名配置)、任期付教員(4名配置)を効果的に活用する。</li> <li>○中学校での授業改善を推進する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業改善モデル校(5校)での実践</li> </ul> </li> <li>○読書活動の充実と調べ学習に対応できる図書館づくり <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校司書20名の配置(専任校8校、兼任校24校)</li> <li>・学校図書館活用教育モデル校での実践</li> <li>・県派遣の学校図書館コーディネーターの活用・学校図書館ボランティアの派遣</li> <li>・NIE活動の積極的推進</li> </ul> </li> <li>○市基礎基本定着調査の継続</li> </ul>

達成状況	自己評価	総合評価	所管課
<p>○「小1プロブレム対策推進事業」の成果等を「中津市幼保小合同研修会」「中津市幼保小連携協議会」において報告し、連携推進につなげた。</p> <p><b>課題及び来年度に向けての方向性</b></p> <p>○「小1プロブレム対策推進事業」の成果を還元し、「中津市幼保小連携協議会」や「中津市幼保小合同研修会」を引き続き効果的に開催することで、幼保小の連携や交流を深め、小1プロブレム解消を目指す。</p> <p>○引き続き、「幼保小連携担当」を小学校の校務分掌に位置づけ、計画的な取り組みを行う。</p> <p>○小中連携の意識を更に高め、授業交流や生徒指導面での情報交換を一層充実させる。</p> <p>○小中高連絡協議会を短期大学等も含め拡大開催することで、一層の連携体制を構築する。</p>	4	B	学校教育課
<p>○板書やノート指導の工夫が多くの学校でなされるなど、小学校中心に授業改善に取り組む学校が増加している。</p> <p>○全国、県学力状況調査結果から見ると、小学校で成果が見られるが中学校では伸び悩みの状況である。</p> <p>→平成27年度県学力状況調査 小学校…偏差値は知識・活用共に全国数値は上回るが、県数値は下回る。 中学校…知識・活用共に全国数値及び県数値を下回る。</p> <p>→平成27年度全国学力学習定着状況調査 小学校…知識・活用共に全国数値及び県数値を下回る。 中学校…知識・活用共に全国数値及び県数値を下回る。</p> <p><b>課題及び来年度に向けての方向性</b></p> <p>○「中津市教育課程研究協議会」の活性化により、教科研究の充実、推進を図る。</p> <p>○中津市授業改善モデル校（中学校5校）における授業改善の取り組みを推進する。</p> <p>○生徒指導の3機能を生かした課題解決型の授業づくり及び1時間完結授業・板書の工夫・ノート指導の充実を図る。</p> <p>○習熟度別指導、個別指導、NPO法人との連携による補充授業や英語検定指導、学校図書館を活用した授業づくりなどに取り組み、低学力層の底上げ、基礎基本の定着、活用する力の育成の一層の充実を図る。</p>	4	B	学校教育課

No	分類			目 標
	大	中	小	
8	3	F	小中連携による学力向上対策	<p>「小中連携会議」及び「相互授業参観」「授業交流」などを充実させ、9年間を見通した学力向上を推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○小中連携会議、授業交流（小中学校の教員乗り入れ授業）、授業研究会への相互参加、小中合同研修会を継続して実施し、学力向上を推進する。</li> <li>○中学校モデル校を活用したネットワークによる授業改善を行う。（モデル校中学校5校、連携研究小学校5校）</li> <li>○学校指導専門員を積極的に活用し、小中連携による学力向上を推進する。</li> <li>○小中学校で連動する「家庭学習の手引」を積極的に活用する。</li> </ul>
9	3	F	学びのススメ塾・学びのススメ英検塾	<p>学びのススメ塾により、小中学生の基礎基本の定着を支援し、学びのススメ英検塾により、中学生の英検（3・4・5級）の取得を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「学びのススメ塾」を、学校事情に応じた柔軟な対応が可能な事業にする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・特に、小学校での夏休みは、学校の主体性を重視した取り組みとする。</li> </ul> </li> <li>○児童養護施設（ヨゼフ寮、清浄園）への出前教室を実施する。</li> <li>○NPO法人との定期的な情報交換、連絡調整を実施する。</li> <li>○「学びのススメ英検塾」は、受講者及び英検受験者の増員に向けた取り組みを行う。</li> </ul>

達成状況	自己評価	総合評価	所管課
<p>○「小中連携会議」「相互授業参観」は全ての小中学校で実施された。</p> <p>○中学校教員が小学校で授業を行う「授業交流」は継続して実施された。</p> <p>○小中の教職員の合同研修会を行う中学校ブロックが増加。研究主任会の中でブロックごとの協議の時間を設定し、定期的な情報交換につなげている。</p> <p>○「今津小・今津中」、「三郷小・山国中」で積極的な小中連携が行われた。</p> <p><b>課題及び来年度に向けての方向性</b></p> <p>○「小中連携会議」及び「相互授業参観」「授業交流」などを一層充実させる。</p> <p>○目標協働達成校（城北中・今津小中）を中心にした小中連携の推進を行う。</p> <p>○中学校モデル校（豊陽中・緑ヶ丘中・中津中・城北中・東中津中）を活用したネットワークによる小中連携による授業改善を行う。</p> <p>○小中学校で作成されている「家庭学習の手引」を活用することで、児童生徒の生活習慣について保護者と積極的に協議を行う。</p>	4	B	学校教育課
<p>○学びのススメ塾（小学校…国・算 中学校…英・数）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小5年生対象→参加率 春休み 46.0%（1.5%減） 夏休み 44.4%（1.4%減） 冬休み 39.6%（11.3%減） ※夏は4～6年生対象</li> <li>・中2年生対象→参加率 春休み 22.9%（8%増） 夏休み 13.9%（1.1%増） 冬休み 14.4%（5.4%減） ※夏は1～3年生対象</li> </ul> <p>○児童養護施設（ヨゼフ寮、清浄園）への出前教室を毎週実施</p> <p>○学びのススメ英検塾（中学生対象）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3級受講者 53名（17名増）→受験者 37名、合格者 25名（合格率67.6%）</li> <li>・4級受講者 130名（50名増）→受験者 29名、合格者 26名（合格率89.7%）</li> <li>・5級受講者 125名（13増）→受験者 56名、合格者 55名（合格率98.2%）</li> </ul> <p>○講師数（学びのススメ塾）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・春休み（NPO講師 35名）、夏休み（NPO講師 34名＋地域ボランティア 32名）、冬休み（NPO講師 40名）</li> </ul> <p><b>課題及び来年度に向けての方向性</b></p> <p>○今後も「学びのススメ塾」を、学校事情に応じた柔軟な対応が可能な事業にする。</p> <p>特に、小中学校での夏休みは、学校の主体性を重視した取り組みとする。</p> <p>○学力向上とグローバル化に対応した人材育成をめざした「中学生ステップアップ講座」を開設する。</p> <p>○児童養護施設（ヨゼフ寮、清浄園）への出前教室を継続する。</p> <p>○NPO法人との定期的な情報交換、連絡調整を実施する。</p> <p>○「学びのススメ英検塾」は、受講者及び英検受験者の増員に向けた取り組みを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今津中モデルの拡大、高校からの英検取得の意義アピール</li> </ul>	4	B	学校教育課

No	分類			目 標
	大	中	小	
10	3	F	地域の教育資源の活用推進	<p>中津市にゆかりのある郷土の偉人福澤諭吉などについて、詳しく知り、地域の伝統・文化を学び、そこに生きるすばらしさを実感し、郷土に誇りをもち、「ふるさとなかつ」を語れるような児童・生徒を育成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○中津市の郷土の偉人（福澤諭吉など）に関する読書感想文・画コンクールを行う。 また、各学校は地域の人材を活用した取り組みを実践する。</li> <li>○社会教育課と連携した「なかつスクスクプロジェクト」が円滑に取り組まれるために、各学校で「地域協育担当教員」による活動を充実させる。</li> <li>○地域教材「私たちの中津市」を活用した授業実践を一層推進する。</li> <li>○「まちなみ歴史探検」事業を積極的に活用する。</li> </ul>
11	3	F	情報教育の推進	<p>各学校において、パソコン教室を利用することで情報教育の推進が行われているが、十分に活用できていない状況である。 タブレットを効果的に活用することにより、個に応じた学習形態の幅が広がり、学習効果の向上が期待できることから、タブレットの効果的な活用推進のために、今後の方向性を策定するとともに、モデル校において試行及び検証を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「タブレット活用推進委員会」の定期的開催と実働化 ・導入計画、効果的な活用方法、機種を選定など</li> <li>○モデル校（継続3校、新規2校）での検証を継続して行う。</li> <li>○特別支援学級（各学級2台配置）での活用を推進する。</li> <li>○学校現場におけるICT支援員及びヘルプデスクの効果的な活用を推進する。</li> </ul>

達成状況	自己評価	総合評価	所管課
<p>○本年度も読書感想文・画コンクールを実施し、小中学生から 32 点の応募があった。</p> <p>○「地域協育担当教員」を全ての小中学校の校務分掌に置き、地域の人材を活用した取り組みを教育課程の中に位置づけて実践している。</p> <p>○地域教材「私たちの中津市」については、各小学校において社会科の時間に活用されている。</p> <p>○全ての小学校において「まちなみ歴史探検」事業が定着し、積極的に活用されている。</p> <p><b>課題及び来年度に向けての方向性</b></p> <p>○中津市歴史民俗資料館や福澤旧居等をはじめとする地域文化施設を活用した学習を推進する。まちづくり推進係と連携し、小学校 6 年生を対象とした「まちなみ歴史探検」事業を継続して活用する。</p> <p>○学校司書を活用して、読書感想文・画コンクールの P R を積極的に行う。</p> <p>○「なかつスクスクプロジェクト」と連動し、各校区の公民館を拠点とする「協育ネットワーク」を活用した学校支援をさらに推進する。</p> <p>○総合的な学習の時間において、地域の特色を生かした学習を推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学力向上支援教員（総合担当）による探求型単元プランの開発</li> <li>・馬溪橋周辺整備活用アクションプランに基づき、耶馬溪地区小中学校にて郷土愛を育む取り組みを行う</li> </ul>	4	B	学校教育課
<p>○「タブレット活用推進委員会」を開催した。</p> <p>○モデル校 5 校（山口小、大幡小、東中津中、南部小、鶴居小、）での実証実験を行った。</p> <p>○各学校への周辺機器（電子黒板や書画カメラ等）の配置ができた。</p> <p>○特別支援学級でのタブレット配置及び活用が行われた。</p> <p>○ I C T 支援員、ヘルプデスクを学校支援で活用することができた。</p> <p><b>課題及び来年度に向けての方向性</b></p> <p>○「タブレット活用推進委員会」を定期的に開催し、実働化させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今後の導入計画、効果的な活用方法、機種選定など</li> </ul> <p>○課内に情報教育担当の任期付職員を配置し、一層の充実を図る。</p> <p>○検証校 5 校での検証を継続する。</p> <p>○特別支援学級でのタブレット活用を推進する。</p> <p>○教職員への研修を計画的に実施する。</p>	3	C	学校教育課

No	分類			目 標
	大	中	小	
12	3	G	不登校未然防止と適応指導教室の充実	<p>現在、各学校では当該児童生徒の個票を作成し、指導経過を明らかにして支援に生かしている。</p> <p>また、毎週、連絡票を市教委に報告することにより、早い段階（登校しぶり状況）で市教委指導主事の訪問、適応指導教室指導員の相談等の支援につなげている。</p> <p>不登校（不登校を理由に年間30日以上欠席）の児童生徒数の減少を目指し、不登校の未然防止として、魅力ある学校づくり（授業づくり・学び合い・仲間づくり）を一層推進する。</p> <p>（※目標値として、小学校出現率0.20%、中学校出現率2.5%）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○不登校の未然防止に努める。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒指導3機能を生かした授業改善による魅力ある学校づくり推進</li> </ul> </li> <li>○「あったかハートなかつ」を実践する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・長期欠席者について個票作成、指導経過の明確化、組織的な支援体制の継続</li> </ul> </li> <li>○適応指導教室との効果的に連携する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校指導専門員、不登校対応指導員、不登校対応嘱託員の活用推進</li> </ul> </li> <li>○関係機関と連携した効果的な支援体制を早期対応の段階で機能させる。</li> <li>○地域不登校防止推進教員配置事業（豊陽中配置）を活用する。</li> </ul>
13	3	G	いじめ問題対策	<p>「学校いじめ防止基本方針」、「中津市いじめ防止基本方針」などに基づく、いじめの未然防止及び組織的な対応を徹底し、解消率100パーセントを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○学校においては、「学校いじめ防止基本方針」に基づき、未然防止やいじめの早期発見・早期対応の在り方、教育相談体制、生徒指導体制、校内研修などについて、より具体的な対応を取る。</li> <li>○「中津市いじめ防止基本方針」に基づき、各学校へ適切な指導を行う。</li> <li>○「中津市いじめ問題対策連絡協議会」及び「いじめ問題専門委員会」を機能させる。</li> <li>○解消が困難な事案対応として、学校支援チーム（市教委）による支援体制を充実させる。</li> <li>○必要に応じて学校問題支援アドバイザー（弁護士）や専門委員会より適切な指導・助言を受けることで解消につなげる。</li> </ul>

達成状況	自己評価	総合評価	所管課
<p>○平成 27 年度（平成 28 年 3 月 31 日現在）、不登校（不登校を理由に 30 日以上欠席）の状況にある小学生は 15 名（前年度比 8 名増）で、中学生は 58 名（前年度比 9 名減）である。（出現率は小学校 0.32%、中学校 2.50%）</p> <p>○各学校では、毎週連絡票を市教委に報告することにより、欠席の子どもをより意識するようになってきた。</p> <p>また、早い段階（登校しぶり状況）での市教委指導主事の訪問、適応指導教室指導員の相談等を行い、支援につなげることができた。</p> <p><b>課題及び来年度に向けての方向性</b></p> <p>○不登校の未然防止に努める。（生徒指導 3 機能を生かした授業改善による魅力ある学校づくりを積極的に推進）</p> <p>○長期欠席者について個票を作成し、指導経過を明確にし、組織的に支援することを継続する。</p> <p>→「あったかハートなかつ」の継続実践</p> <p>○平成 28 年度よりスクールソーシャルワーカーを配置し、積極的に活用する。</p> <p>○適応指導教室を中心に学校指導専門員、不登校対応指導員、不登校対応嘱託員の活用を推進する。</p> <p>○関係機関と連携した効果的な支援体制を早期対応の段階で機能させる。</p> <p>○地域不登校防止推進教員配置事業（豊陽中配置）を効果的に活用する。</p>	4	B	学校教育課
<p>○平成 27 年度（平成 27 年 12 月 31 日現在…H27 年度文科省調査の遅れによるもの）認知件数は、小学校 631 件（解消率 74%）、中学校 94 件（解消率 61%）となっている。</p> <p>○「中津市いじめ防止基本方針」（平成 26 年 9 月策定）の周知徹底を行った。また、「中津市いじめ問題対策連絡協議会」を年 2 回、「いじめ問題専門委員会」を年 3 回開催した。</p> <p>○学校支援チームによる支援が随時実施された。</p> <p>○学校問題支援アドバイザー（弁護士）による支援体制を随時行った。（いじめに関する相談件数 5 件）</p> <p><b>課題及び来年度に向けての方向性</b></p> <p>○平成 27 年度（平成 27 年 12 月 31 日現在…H27 年度文科省調査の遅れによるもの）認知件数は、小学校 631 件（解消率 74%）、学校 94 件（解消率 61%）となっている。</p> <p>○「中津市いじめ防止基本方針」（平成 26 年 9 月策定）の周知徹底を行った。また、「中津市いじめ問題対策連絡協議会」を年 2 回、「いじめ問題専門委員会」を年 3 回開催した。</p> <p>○学校支援チームによる支援が随時実施された。</p> <p>○学校問題支援アドバイザー（弁護士）による支援体制を随時行った。（いじめに関する相談件数 5 件）</p>	4	B	学校教育課

No	分類			目 標
	大	中	小	
14	3	H	教育補助員の拡充	<p>中津市において、通常学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする幼児・児童・生徒が増加傾向にあり（通常学級に小4.3%、中7.3%在籍）、現在、個別の支援が必要な子どもに対して、「個別の指導計画」・「個別の教育支援計画」を作成し、担任と教育補助員で連携しながら教育にあたっている。（平成26年度114名）</p> <p>今後も特別支援の必要な幼児・児童・生徒に対しては、校内支援体制をさらに充実し、配置されている教育補助員を一層効果的に活用する。（平成27年度53名…幼小中52名+市民病院1名）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「個別の指導計画」を作成し、各学校においてコーディネーターを中心に関係機関及び家庭と連携した支援を進める。</li> <li>○教育補助員の適切な配置と充実を図る。（担任との連携体制）</li> <li>○教育補助員の資質向上のための特別支援教育研修会の内容を一層充実させる。</li> </ul>
15	3	I	教職員研修の充実	<p>教職員研修として、講師招聘による授業研究会や教職員研修を実施するとともに指導主事、学校指導専門員による学校訪問を行っている。</p> <p>これらの活動を通して、学校訪問教職員のOJT（職務を通じた能力開発）、人材育成、資質向上を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○中津市授業研究会 <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科研究をベースにした講師招聘（授業観察・指導助言・講演）</li> <li>→年3回</li> </ul> </li> <li>○学校支援事業 <ul style="list-style-type: none"> <li>・大分大学伊藤安浩氏の招聘（授業観察・指導助言）</li> <li>→年10回</li> </ul> </li> <li>○先進地研修（授業改善） <ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校授業改善モデル校の教員派遣→目的や使命の明確化</li> </ul> </li> <li>○校内研修の充実 <ul style="list-style-type: none"> <li>・指導主事（市・県）、学校指導専門員の積極的な参加（指導助言）</li> </ul> </li> <li>○「中津教師義塾」（市教委主催）の実施 <ul style="list-style-type: none"> <li>→中堅教員を中心とした学校マネジメント研修</li> </ul> </li> <li>○新設「中津市教育課程研究協議会」による教科部会活性化 <ul style="list-style-type: none"> <li>→教職員の意識改革</li> </ul> </li> <li>○臨時講師へ対する研修（市教委主催）</li> </ul>

達成状況	自己評価	総合評価	所管課
<p>○「個別の指導計画」は、特別支援学級在籍の児童生徒全員（116名）に作成できた。PDCAサイクルで学期毎に修正し、次学期の適切な支援につなぐことができている。「個別の教育支援計画」（相談支援ファイルの策定率8割）</p> <p>○教育補助員の配置→幼3名、小34名、中15名の計52名</p> <p>○教育補助員の研修（年4回実施） →具体的な支援の在り方や各校（園）の実践交流、障がい特性に応じた効果的な支援方法についての研修</p> <p><b>課題及び来年度に向けての方向性</b></p> <p>○通常学級では、特別な教育的支援を必要とする幼児児童生徒を中心に据えた授業改善（ユニバーサルデザイン…全ての子どもに分かりやすい・学びやすい授業の基礎基本）に教育補助員と連携して取り組む。</p> <p>○特別支援学級在籍の児童生徒を中心に、担任等と連携して「合理的配慮の提供…基礎的環境整備・個別の教育支援計画の反映」に取り組む。</p> <p>○教育補助員の資質向上のために、特別支援教育研修の更なる充実を図る。</p> <p>○教育補助員の増員及び質の向上に努め、一層効果的な活用を図る。</p>	4	B	学校教育課
<p>○中津市授業研究会2回開催</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第1回→田村学氏（文科省調査官）によるアクティブ・ラーニングについての研修（参加者約250名）</li> <li>・第2回→五十嵐絹子氏（全国学校図書館アドバイザー）学校図書館活用教育についての研修（参加者約150名）</li> </ul> <p>○学校支援事業→大分大学伊藤教授の招聘校10校</p> <p>○中津教師義塾を年8回実施した。</p> <p>○先進地視察研修に4校9名が参加した。</p> <p>○指導主事や学校指導専門員等による学校訪問は延べ230回以上であり、全ての学校において指導・助言を行った。</p> <p>○臨時講師の資質・能力向上のための研修実施（年間6回）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・受講者数のべ40名→採用試験合格者10名（小2名、中3名、養護3名）</li> </ul> <p><b>課題及び来年度に向けての方向性</b></p> <p>○中津市授業研究会、学校支援事業、指導主事や学校指導専門員による学校訪問（校内研修参加）を継続して実施することで教職員研修の一層の充実を図る。</p> <p>○中津教師義塾、臨時講師研修を継続する。→中堅教員などを中心とした学校マネジメント研修と内容の充実</p> <p>○「中津市教育課程研究協議会」による教科部会活性化→教職員の意識改革を一層推進し授業改善につなげる</p>	4	B	学校教育課

No	分類			目 標
	大	中	小	
16	3	J	小規模小学校適正配置の検討	<p>耶馬溪教育センター管内の児童数は平成27年度131名であり、5年後を推計した場合には88名(平成32年度)となることが想定される。よって、耶馬溪地域内小学校4校を1校に再編し、小・中連携の強化を図るべく耶馬溪中学校敷地内に新たな小学校を新設し、開校を目指している。</p> <p>○現状と将来の教育のあり方を耶馬溪地域全体の問題として議論していただき、引続き、教育委員会の方針について理解を求めていく。(1校案を基本とした過渡的2校案)          なお、各校区のPTA及び耶馬溪地区保護者会が抱える不安材料等(学校建設場所及び運動場使用、通学方法等)の解消に取り組む。</p>
17	4	K	PTAとの連携強化	<p>PTAと連携して、人づくりの基盤である家庭教育の充実を図る。</p> <p>○PTA総会、授業参観日、中学校統一学校公開日の持ち方を工夫する。          ・各小中学校のPTA総会参加率アップ(小75%・中40%)          ・中学校統一学校公開日の参加者アップ(1,500名以上)</p> <p>○開かれた学校づくりを推進する。          ・学校公開日の設定、学校評価の充実及びなかつスクスクプロジェクトの活用、学校ホームページの充実</p> <p>○目標協働達成校(3校)での実践(土曜学習など)。</p>

達成状況	自己評価	総合評価	所管課
<p>○山移小学校のあり方について、子供たちのためにどうあるべきかを真剣に議論し、保護者を中心に何回も協議する中で、今いる児童が卒業する平成30年3月をもって閉校という方針について、3月定例教育委員会の中で方針を確認した。</p> <p><b>課題及び来年度に向けての方向性</b></p> <p>○山移小学校のあり方について、閉校という方針の下、閉校に向けていい形で終える様、今後も引き続き保護者・地域との協議を重ねていく。また、在校生2名における教育環境の充実に努めていく。</p>	3	C	耶馬溪教育C 教育総務課
<p>○PTA総会参加率は、小学校で減(70.5%→57.0%)、中学校で増(32.8%→48.9%)、小中全体で減(57.8%→54.3%)である。</p> <p>○中学校統一学校公開日参加数は、1,421名(前年度比+61名)であった。</p> <p>○学校ホームページの更新がほぼ全ての学校で最低月1回程度行われている。</p> <p>○目標協働達成校(3校)の今津小・今津中・城北中において土曜学習が定着した。</p> <p><b>課題及び来年度に向けての方向性</b></p> <p>○PTA総会、授業参観日、中学校統一学校公開日の持ち方をさらに工夫する。</p> <p>○目標協働達成校3校(今津小・今津中・城北中)での取り組みを各校区へ拡大し、家庭・地域が能動的に学校と協働する取り組みを一層進める。</p> <p>○学校・保護者・地域・市教委の協働を推進する「学力向上懇談会」を中学校で継続し、小学校への拡大を図る。</p> <p>○土曜学習を拡大する。(豊陽中での実施)</p>	3	C	学校教育課

No	分類			目 標
	大	中	小	
18	4	K	生活習慣、学習環境、家庭学習	<p>テレビ視聴時間、ゲーム時間が多く、学習時間が少なく、家庭学習の定着不足となっているため、モデル地域を指定し、地域と連携して人づくりの基盤である家庭教育の充実を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○基本的な生活習慣、テレビ・ゲーム時間の調節、家庭学習の習慣づけなどについて小中で連携して指導する。（「生活習慣意識調査の数値を県平均に近づける）</li> <li>○各学校作成の「家庭学習の手引き」を、保護者へ周知徹底するとともに効果的に活用する。</li> <li>○小中連携と公民館活動の活性化を絡めた取り組みの実践（今津校区）</li> <li>○目標協働達成校（3校）での土曜学習を推進する。</li> </ul>
19	4	K	家庭教育力の向上	<p>子どもの基本的な生活習慣が欠如しているといわれる要因の一つとして、家庭の教育力の低下があげられる。特に幼少期における「しつけ」は、その後の子どもたちの学力、体力の向上や道徳心の醸成に大きな影響を与えることになる。</p> <p>学校教育活動の整備や地域の教育力の活用などが子どもの育成に効果的に結び付くためには、家庭教育力の向上が不可欠であると考えるが、その具体的な手立てができていないのが現状である。</p> <p>そのため、「しつけ」に関して関係部局と連携をして、家庭の教育力向上のための家庭教育支援システムの構築のための組織づくりを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○子育て支援課、地域医療対策課、学校教育課と連携を強化し、課題の共有と具体的な施策の検討を行う。</li> <li>○親に「しつけ」に関する指導ができる人材を育成し、その活用を図る。</li> </ul>

達成状況	自己評価	総合評価	所管課
<p>○「平日・休日の学習時間」は、平成 27 年度小学校 5 年生では県平均を下回った。中学校 2 年生についても、県平均を下回った。</p> <p>○小中連動した「家庭学習の手引き」により、保護者と連携しながら家庭学習を充実させる取り組みが定着しつつある。</p> <p>○目標協働達成校を中心にした、家庭・地域が能動的に学校と協働する取り組みを行うことができた。</p> <p><b>課題及び来年度に向けての方向性</b></p> <p>○学力向上会議、PTA 総会、学級懇談会、家庭訪問、ホームページ、学校通信などを活用して、児童生徒の実態を保護者に伝え、保護者と連携しながら家庭教育の充実を図っていく。</p> <p>○学校・家庭・地域・市教委が共通認識のもと、学力向上等について学校運営を協働する「学力向上懇談会」の継続（中学校）と拡大（小学校）を行う。</p> <p>○目標協働達成校 3 校（今津小・今津中・城北中）での取り組みを各校区に広げ、家庭・地域が能動的に学校と協働する状況をつくる。</p>	3	C	学校教育課
<p>○他部局との連携を図ることができず、家庭教育支援のための組織化には至らなかったが、「まち・ひと・しごと総合戦略」の「中津の未来を担う人材を育む」ための具体策として「しつけ教育の充実」を位置づけた。</p> <p><b>課題及び来年度に向けての方向性</b></p> <p>○中津市地域協育振興プラン推進事業の中でモデル校区を指定し、学校、家庭、地域が協働した家庭教育支援活動を実施する。また、人権教育総合推進地域事業の「ほめあうまち なかつ」を推進する中で、家庭の教育力の向上を目指す。</p>	3	C	社会教育課

No	分類			目 標
	大	中	小	
20	5	L	コミュニティーセンターの計画的建設	<p>建築年の古いものは部屋数も少なく、駐車場も狭いため地域の中核施設として多様化する住民のニーズに応えることが困難な状況であるため、老朽化した公民館は建築年の古い順に随時建設を行ってきている。</p> <p>地域住民のニーズに応え、如水・今津コミュニティーセンターの工事が滞りなく出来るよう準備を進める。</p> <p>また、和田コミュニティーセンター（仮称）の建設に向け地元と協議しながら進めていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○今津コミュニティーセンターについては、5月18日を竣工式とし、それに合わせ外構工事完成や備品類等の調達をし竣工に間に合わせる。</li> <li>○如水コミュニティーセンターについては、関係機関との調整を含めた外構工事や備品調達を進め、本年度7月下旬の竣工を目指す。</li> <li>○和田コミュニティーセンター（仮称）については、地域住民の意見を反映させながら建設候補地の選考を進める。</li> </ul>
21	6	M	中津市地域協育振興プラン推進事業	<p>子どもの育成を地域が支援するという活動自体は手段であり、本来の目的は、その活動を通して地域づくりを行うことである。事業の実施を通して、地域づくりに貢献できる人材の育成を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ネットワーク会議をまちづくり協議会内に位置付けている今津校区をモデルとして、事業効果、課題を検証する。</li> </ul>

達成状況	自己評価	総合評価	所管課
<p>○今津コミュニティーセンター 5月18日(月)竣工式  ○如水コミュニティーセンター 7月29日(水)竣工式  ○和田コミュニティーセンター 建設予定地の選考・内定  2月23日(火)第3回和田公民館運営委員会にて地元説明</p> <p><b>課題及び来年度に向けての方向性</b>  ○和田コミュニティーセンター(仮称)の早期建設に向け、地元と協議しながら進めていく。</p>	4	B	社会教育課
<p>○【学校支援活動数】2,629回(昨年度2,290回)  【支援ボランティア実数】2,165人(昨年度2,836人)  学校支援活動回数は、年々増加。各学校の教育課程に位置づいている。</p> <p>○今津校区、三光校区において、ネットワーク会議が地域づくりに関わる機運が高まってきている。</p> <p>○中津市「協育」フォーラムにおいて、県との共催で高齢者の社会参画を促進した。</p> <p><b>課題及び来年度に向けての方向性</b>  ○モデル校区を指定し、学校、家庭、地域が協働した家庭教育支援活動を実施する。  ○人権教育総合推進地域事業の「ほめあうまち なかつ」を推進する上で、ネットワーク会議との効果的な連携を促進する。</p>	4	B	社会教育課

No	分類			目 標
	大	中	小	
22	6	M	放課後子ども教室（土曜教室、放課後チャレンジ教室）	<p>公民館を中心として放課後中津子ども教室（「学びの教室」）は定着しており、課題となっている子どもの放課後対策としての機能を果たしているが、事業に関わる大人の高齢化や固定化、後継者が課題となってきたことにより、新規人材の発掘、確保、後継者の育成等、今後の活動の工夫が望まれる。</p> <p>そこで、地域団体、校区ネットワーク会議との連携、協力を促進し、新規人材の発掘、後継者の育成等を図る。</p> <p>また、放課後児童クラブとの連携を密にし、放課後の子どもの安全安心及び体験活動の充実を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○担当者が各教室の現状を把握し、新規人材や新規団体を発掘、確保するための情報収集に努め、情報をコーディネーター会議を通して発信していく。</li> <li>○各教室同士の支援者、団体、校区ネットワーク会議との情報交換を密にし、支援者の共有化を図るとともに、現支援者の中から中心となる後継者を育成していく。</li> <li>○年度始め及び年度末に放課後子ども教室コーディネーターと放課後児童クラブ指導員との連携会議を実施し、放課後の子どもの安全安心及び充実した体験活動の充実を図る。</li> </ul>
23	6	N	ワンパク！たんけん中津	<p>中津の歴史や産業について、中津ライオンズクラブの支援を受け、1泊2日の日程で現地視察し、見聞することによって知識を深め、ふるさと中津の再発見や愛着を持ってもらうことを目的に実施している。また、宿泊を通して他校児童・生徒との交流も図っている。しかし、参加児童在籍校の片寄りや三光地域、本耶馬溪町地域、耶馬溪町地域、山国町地域の小学校からの参加が少ないため、周知方法や学校との連携方法を検討し、下毛地区児童の参加促進と、「ワンパク！たんけん中津」と中津学びんびっく（子ども中津検定）を合わせて実施することで、活動内容の充実を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○地元に住んでいながら行ったことがない場所や体験したことがない活動などを取り入れ、地元の児童にとって、魅力のあるものにする。</li> <li>○募集時期に担当者が旧下毛地区の学校訪問を行い、児童の応募を促す。</li> <li>○活動の一環に事前学習を兼ねた「子ども中津検定」を行う。</li> </ul>

達成状況	自己評価	総合評価	所管課																								
<p>放課後中津子ども教室（学びの教室含） 【実施校区…担当者 22 小学校区】</p> <table border="1" data-bbox="151 400 1082 683"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="2">放課後チャレンジ教室</th> <th colspan="2">土曜教室</th> </tr> <tr> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H26</th> <th>H27</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実施日数</td> <td>1,040 日</td> <td>1,040 日</td> <td>696 日</td> <td>696 日</td> </tr> <tr> <td>実登録数（子ども）</td> <td>687 人</td> <td>692 人</td> <td>792 人</td> <td>807 人</td> </tr> <tr> <td>実人数（大人）</td> <td>226 人</td> <td>183 人</td> <td>347 人</td> <td>290 人</td> </tr> </tbody> </table> <p>○コーディネーター会議・・・年 4 回開催 ○啓発用ポスターを学校、公民館、市内商業施設に掲示した。また、募集チラシを学校を通して配布した。 ○若年層の講師及びボランティアスタッフには将来のコーディネーター候補としての意識をもつように働きかけることによって、次世代の人材育成及び発掘へ結びつける手立てとした。 ○平成 27 年度については 2 教室において若年層の講師として関わっていた人材がコーディネーターとして教室の運営を支えた。また、コーディネーターの役割を引き渡す人材も教室との関わりをやめることなく来年度も引き続き講師として子どもたちの指導にあたることを確認できた。</p> <p><b>課題及び来年度に向けての方向性</b> ○事業に関わる大人の高齢化や固定化が課題であり、市報により新規人材の募集及び発掘を行ったところ、少しずつ成果が見え始めている。引き続き新規人材の発掘、確保等に向けての方法、今後の活動の工夫を検討していく。また、若年層講師にはコーディネーター候補としての視点をもって人材育成の力を注いでいく。</p>		放課後チャレンジ教室		土曜教室		H26	H27	H26	H27	実施日数	1,040 日	1,040 日	696 日	696 日	実登録数（子ども）	687 人	692 人	792 人	807 人	実人数（大人）	226 人	183 人	347 人	290 人	4	B	社会教育課
		放課後チャレンジ教室		土曜教室																							
	H26	H27	H26	H27																							
実施日数	1,040 日	1,040 日	696 日	696 日																							
実登録数（子ども）	687 人	692 人	792 人	807 人																							
実人数（大人）	226 人	183 人	347 人	290 人																							
<p>○活動内容…【1 日目】八面山平和公園・恒久平和の火（見学及び紙芝居「八面山より愛を込めて、ややまの小池」）→コスモス園（見学）→ネイチャーゲーム in 洞門キャンプ場→オランダ橋・青の洞門・競秀峰（禅海和尚像）→九州北部豪雨災害時の話しを聞く→紙芝居（紙芝居読み聞かせ）「青の洞門など」【2 日目】羅漢寺（見学→坐禅）→リフト移動（羅漢寺乗車口→羅漢寺下駐車場）→そば打ち体験。 座禅体験やそば打ち体験など小学生にとって、普段できない興味深い体験活動を組んだり、本耶馬溪・三光地域の代表的な場所を訪問地を選んだりしたことで参加者の満足度が高かった。 ○募集方法…旧中津地区 11 小学校区は各学校に配布。旧下毛地区 12 小学校へは直接訪問し、学校長に直接募集依頼した。参加者数…46 人（平成 26 年度 50 人）・校区别申込者数：旧下毛/全体：5 人/46 人</p> <p><b>課題及び来年度に向けての方向性</b> ○参加児童の在籍校の片寄りと三光地域、本耶馬溪地域、耶馬溪地域、山国地域の小学校からの参加が少ないので、今後も周知方法、学校との周知協力を工夫していく必要がある。</p>	4	B	社会教育課																								

No	分類			目 標
	大	中	小	
24	6	N	なかつキッズ・サイエンス	<p>小学校4,5,6年生を対象に科学実験や自然体験学習を2日間にわたって実施している。しかし、参加者の学校区に偏りがあり、これまで参加実績の少ない学校からの参加児童の増加を図る。</p> <p>○市内全域から寄り付きが良くなるよう会場の見直しを行う。 ○中津地区の小学校及び三光地区、本耶馬溪地区、耶馬溪地区、山国地区の小学校にも募集を行う。</p>
25	6	M	三保小学校人形劇クラブの育成	<p>北原人形芝居保存会のメンバーが講師となり、三保小学校の4,5,6年生の希望者により人形劇クラブが運営されている。週一回、三保交流センターで、練習を行い、練習成果の発表として、毎年2月に開催される原田神社の万年願で演目を披露している。さらに年度のまとめとして、校区の介護福祉施設で発表し、利用者からたくさんの喜びの声を得ている。</p> <p>子どもたちにも発表を通して、地域のお年寄りの方々にこれからも喜んでもらおうという気持ちが芽生えている。今後も万年願以外にも人形芝居の発表の場をつくり、郷土を愛する心の醸成を図りたい。</p> <p>○老人介護施設やその他福祉施設等の慰問での上演ができるようにコーディネートする。</p>
26	6	N	福澤諭吉記念事業	<p>福澤諭吉の遺徳を顕彰し、それを継承するために福澤諭吉記念祭実行委員会が、毎年3つの記念事業（弁論大会、書写展、かるた大会）を実施している。各記念事業の周知を市民へ行い、一般観覧が可能な弁論大会と書写展への一般観覧者の増加と小中学校かるた大会への出場チームの増加を図る。</p> <p>○学校、福澤旧邸保存会との連携の強化 ○ケーブルテレビ等、マスメディアの活用</p>

達成状況	自己評価	総合評価	所管課
<p>○開催場所を、市内全域から寄り付きのよい大幡コミュニティーセンターにしたことで、リピーター及び新規参加者が増えた。参加実績のない学校からも4年生の参加者があった。また、保護者の参加も可能である一文を募集に加えたことで、保護者の参加が増えた。</p> <p>○参加者数：(ふしぎ実験教室：児童24人、保護者8人) (山国川たんけんたい：児童30人、保護者5人)</p> <p>○三光地区、本耶馬溪地区、耶馬溪地区、山国地区の小学校にも募集要項を配布したが、学校行事等とスケジュールが重なったこともあり、参加者の増加につながらなかった。</p> <p><b>課題及び来年度に向けての方向性</b></p> <p>○参加児童の在籍校の片寄りと三光・本耶馬溪・耶馬溪・山国地域の小学校からの参加を促すために周知方法、学校との周知協力を工夫していく。また、「中津少年少女発明クラブ」と共同開催することも検討していく。</p>	4	B	社会教育課
<p>○クラブ児童は伝統芸能の練習を通して、行儀作法とコミュニケーションの取り方について熱心に学習することができた。校区内外の福祉施設の利用者に向けての学習成果発表については、介護施設を慰問し特別養護老人ホーム「さわらび」の60人の利用者、老人介護施設「りくいぜん」の30人の利用者の方々の前で披露することができ、クラブ児童一人ひとりが万年願にむけての練習課題を持つことができた。練習成果の発表として、2月7日に開催された原田神社の万年願で演目を堂々とした立ち振る舞いで披露することができた。</p> <p><b>課題及び来年度に向けての方向性</b></p> <p>○毎年恒例の2月に開催される原田神社の万年願での演目披露に加え、校区内外の福祉施設でのふれあい公演を万年願の前の時期に企画し、実施していくことで定着を図っていきたい。</p>	4	B	社会教育課
<p>○ケーブルテレビや市報を通して周知を図った。</p> <p>○弁論大会では、昨年と同じくらいの約80人の一般の観覧があった。</p> <p>○書写展は435名の観覧者があり、微増している。</p> <p>○かるた大会出場チームは34チーム(昨年度30チーム)で、小学校低学年は2チーム減少、小学校高学年は3チーム増加、中学生は3チーム増加し、出場者は15人増加した。</p> <p><b>課題及び来年度に向けての方向性</b></p> <p>○郷土にゆかりの深い「福澤諭吉」の偉業や考え方、生き方などを中津の子ども達に伝えるために、3事業をさらに充実したものとしていく。</p>	4	B	社会教育課

No	分類			目 標
	大	中	小	
27	6	N	公民館活動における地域のふろさと学習	<p>各公民館において、地域の特色や住民のニーズに応じた独自の公民館講座が行われており、その中には、地域の歴史を学ぶ講座を開設している公民館がある。基本的には、公民館長が企画運営する講座であるが、計画段階に地元の歴史を学ぶ住民や公民館利用者が参画し、館長とともに企画、運営にあたっている。</p> <p>今後も、多くの地域住民が郷土の良さを再発見できる活動を充実させる。</p> <p>○公民館が持つ資源を活かしたふろさと学習や事業の充実を図る。 (資源・・・①集える施設・設備、②社会教育専門職員、③予算・事業、④運営に携わる住民、⑤地域の社会教育団体、ボランティア団体等、⑥利用者・利用団体、⑦達人的人材、⑧自治会や行政・公共施設とのパイプ、など)</p>
28	6	N	中津市生涯学習大学「中津学」	<p>平成 21 年度から中津に思い入れの深い方々を講師に招いた「中津学」を月に 1 回開催し、あまり知られていない中津ゆかりの人物や歴史などについて学ぶ機会を提供している。昨年度からは、受講者が減少し、固定化してきている為、受講者数の増加を図る。</p> <p>○年間の講座内容を魅力のあるものにする。 ○生涯学習センター、公民館サークルと連携を強化して周知を図り、生涯学習大学受講者の参加を促進する。 ○受講カードを評価として効果的に活用する。</p>
29	6	N	「なかつ学びんびくく（子ども中津検定）」	<p>中津の自然、動植物、歴史、昔話、偉人、文化、産業と交通、お祭り・イベントなどを網羅した公式ガイドブックを作成し、平成 24 年度から市内小学校 4、5、6 年生全員に配布し、「なかつ学びんびくく（子ども中津検定）」を実施している。</p> <p>昨年度から、同じ目的の「ワンパク！たんけん中津」と同時開催し、受験生の確保にもつながっているが、「ワンパク！たんけん中津」参加者 50 名以外の検定受験者を増やす。</p> <p>また、公式ガイドブックの改訂を行う。</p> <p>○学校との連携を密にし、受験者の確保を行う。 ○改訂に向けての調査、研究を行う。</p>

達成状況	自己評価	総合評価	所管課
<p>○公民館講座として、成人、子供対象の校区の歴史を知る講座を実施。 ○各公民館で、「郷土史」に関する講座を生涯学習教室、女性学級等で実施。 ○南部公民館と校区青少年健全育成協議会が連携して、校区の通学路を中心に「中津の偉人、賢人」看板を設置。 ○今津コミュニティーセンターを拠点とした「いきいき今津まちづくり協議会」において、校区住民に対する郷土史講座を実施。</p> <p><b>課題及び来年度に向けての方向性</b> ○ふるさと学習の推進について、特に校区の歴史学習は公民館の存在が不可欠である。住民が故郷の良さを知り、それを誇りに思い、後世に伝えるための学習活動の場を提供するためにも、今後、さらなる公民館の活性化が必要である。</p>	4	B	社会教育課
<p>○年間受講者総数 389 人、1 回平均 49 人（昨年度 398 人） ○皆勤者 8 名（昨年度 10 名）</p> <p><b>課題及び来年度に向けての方向性</b> ○平均 50 名以上を目標に中津市生涯学習大学と連携を強化して、受講生を確保していく。また、年間 8 回の講座内容も歴史関係にとらわれず、魅力的な内容を選定していく。</p>	3	C	社会教育課
<p>○開催日を「ワンパク！たんけん中津」の実施日に合わせ、「たんけん中津」の参加者は、受験を必須とした。 ○受験者数 68 名（昨年度 79 名） ○1 級（ふるさとマスター）認定者 5 名、2 級認定者 10 名、3 級認定者 14 名</p> <p><b>課題及び来年度に向けての方向性</b> ○全面改定をした公式ガイドブックを新 4 年生全員に配布する。来年度も本事業と同じ目的を持つ「ワンパク！たんけん中津」とタイアップし、受験者の確保を行うが、参加者以外の受検者数確保にも努める。</p>	4	B	社会教育課

No	分類			目 標
	大	中	小	
30	6	N	偉人シリーズ、マンガ本の発刊	<p>地域に対する誇りと愛着の心を育み地域の活性化を図ることを目的とし、郷土の埋もれた偉人の業績を顕彰するため、マンガ本を発刊する。今年度は、来年度マンガ本を発刊するために、今年度は郷土の埋もれた偉人の選定作業を行なう。</p> <p>○候補の一覧および候補の資料を収集する。</p>
31	7	0	利便性の向上	<p>市立図書館の開館時間は、平日午前10時から午後6時、日曜及び祝日は午前10時から午後5時となっている。過去に実施したアンケート調査では開館時間延長を望む声が13%あり、県下公立図書館でもこのことが検討されている。また、年間開館日数は約288日で、アンケートでは休館日の削減を望む声が7.4%あり、開館時間延長、と休館日削減の検討が必要となっている。ソフト面とハード面の充実を図り、だれもが気軽に利用できる「市民の本棚」となるような図書館づくりを目指す。</p> <p>○市立図書館のサービス向上を図るため、先進図書館の勤務体系等を詳細に調査し、その内容を参考にして中津市の実情に応じた開館時間の延長や閉館日数の削減について、検討を行う。</p> <p>○市民が利用し易い図書館システムの更新を行う。</p> <p>○施設設備の整備 (駐車場整備・2階閲覧室空調機増設・トイレ洋式化整備等)</p>
32	7	0	学校図書館との連携	<p>平成25年度から、旧市内の小学校へ1学年に100冊程度の本を年2回から3回、学校の要望に基づき本や学習資料の団体貸出しを行っているが、学校または学級ごとに利用状況に差がある現状である。</p> <p>学校図書館司書を活用し、学校から図書館、図書館から学校への連携をより充実したものとし、学校図書館司書との交流を図る。</p> <p>○学校図書館との連携の充実を図る。</p> <p>○学校司書教諭及び司書との連絡会議を開催する。</p> <p>○学校図書館司書との交流を図る。</p>

達成状況	自己評価	総合評価	所管課
<p>○マンガ本については、江戸時代に山国で種痘を行った村医者「村上姑南」の、資料収集を行った。伝記資料として『村上姑南伝』『姑南先生碑文』、著作として『刀圭余話』を収集した。資料から村上姑南の略伝や年表をまとめた。</p> <p><b>課題及び来年度に向けての方向性</b></p> <p>○今後は、今までの経緯等も含め事業の検証を行う。</p>	4	B	文化財課
<p>○図書館ビジョン策定時に実施したアンケートの意見や平成 27 年 11 月に実施したアンケートの結果を踏まえ、利用者の利便性を考慮した開館時間に変更した。(平成 28 年 4 月 1 日より)</p> <p>休館日の削減を望む声はあるが、協議を行った結果、月末整理日や資料総点検のための休館は、図書館を支障なく運営する上で必要であることから、削減を行うことは難しい。</p> <p>○平成 27 年 10 月の図書館電算システムの更新に伴い、予約サービスはメールアドレスを登録すれば、メールで通知が届くようになり図書館への問合せが不要になった他、自動貸出機 2 台を設置するなど市民が利用しやすいシステムになった。</p> <p>○施設整備については、小幡記念図書館の正面玄関の向かい側に新たに 27 台分の駐車場が完成し、以前から続いていた車の混雑が解消された。また、2 階閲覧室に空調機を増設、和式トイレを全て洋式化するなど利用者が過ごしやすい環境を整備することができた。</p> <p><b>課題及び来年度に向けての方向性</b></p> <p>○市民のだれもが利用しやすい図書館にするため、職員の資質を向上し、行事の企画や図書館だより・ホームページ等の情報発信の充実を図る。</p> <p>○施設整備では、照明の LED 化工事を行い、環境整備を行うことで利便性の向上を図る。</p>	5	A	小幡記念図書館
<p>○学校との連携を図るため、8 月と 12 月に学校図書館司書と合同研修会や連絡調整会議を開催し、意見交換を行った。その際、新聞記事ブラウジングシステム「KENBUN」の操作・利用方法について研修を行い司書との交流を図った。</p> <p>また、学校用図書館だよりの発行・配布を行ったり、除籍本の有効活用を図るため、要望のあった小学校 21 校、中学校 9 校に計 725 冊の本の提供を行うなど学校との連携を強めた。</p> <p><b>課題及び来年度に向けての方向性</b></p> <p>○日頃よりレファレンスやリクエストに応えるなど積極的に交流を図り、今後も多くの学校で図書館の蔵書を読書活動の推進等に利用してもらう。</p>	4	B	小幡記念図書館

No	分類			目 標
	大	中	小	
33	7	P	芸術文化事業（木村記念美術館）	<p>美術館活動の周知徹底を図るとともに、より多くの方に利用してもらえるよう、来館者増に向けた取り組みを強化する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○年4回の常設展に加え、企画展や美術関連イベントの開催を通じて、美術館事業の充実を図る。</li> <li>○美術館の出前講座（鑑賞授業）を実施するほか、各種メディアを活用した積極的な広報活動を行う。</li> <li>○県立美術館と連携した事業の実施等、県や関係機関と協力して多方面への情報発信を行う。</li> </ul>
34	7	Q	展示施設の計画的な整備と利用促進	<p>昭和13年に建設された歴史民俗資料館の建物は、経年劣化による傷みが各所で生じており、新歴史民俗資料館の建設のために実施設計終了後、今年度中に契約を締結するように努力すると共に、歴史民俗資料館は、新歴史開館までは現状を維持する。</p> <p>また、所管の各施設での展示替え等を行い、入館者増を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○歴史民俗資料館は、新歴史開館までは現状を維持し、展示を続ける。</li> <li>○新歴史民俗資料館の建設については、設計(デザイン)や展示方法、運営などについて市民のご意見を聞き、周辺住民に建設計画や事業内容について、十分説明を行い、理解と協力を得られるように努め、新歴史民俗資料館の展示内容・展示物の選定を検討し、設計に反映させ、建築契約締結を目指す。</li> <li>○歴史民俗資料館、村上・大江の両医家史料館、耶馬溪風物館の入場者の増加への対策として、HPでの広報活動や展示内容の変更等を行う。また寄贈に伴う資料の収集にも努める。耶馬溪風物館については、昨年と同様企画展を開催し、入館者増を目指す。</li> </ul>

達成状況	自己評価	総合評価	所管課
<p>○年4回の常設展に加え、「大分アジア彫刻展」「田中長光展」の2回の企画展を実施。企画展の1つが展示スペースの都合上、図書館開催となったが、これを含めると全体としての来館者数は増加しており、関連イベント（ワークショップ、ギャラリートーク）や鑑賞授業（北部小など計3回）を行なうなど幅広い活動を展開することができた。また、美術館内に無料休憩スペース「美庵」を開設したほか、スタンプラリーなど県内施設と連携した事業の準備を進めることができた。</p> <p><b>課題及び来年度に向けての方向性</b></p> <p>○新たに始まる「美術鑑賞講座」等を通じて美術館利用者の掘り起こしを行なうとともに、県や他施設などとも協力をして多方面への情報発信を行う。</p>	4	B	小幡記念図書館
<p>○新歴史民俗資料館の整備については、地元説明会や委員会を開催し、建設に向け準備を進めていたが、事業の見直しにより整備内容を再検討することとなった。両医家史料館は展示替えを2回、歴民は3度展示替えを実施した。風物館は羅漢の展示を行う予定が、展示ケースが故障したため県立歴史博物館での「お釈迦様と羅漢さん」展に積極的に展示協力を行った。企画展は4回開催し、また、多くの寄贈・寄託資料を受け資料整理を行った。</p> <p><b>課題及び来年度に向けての方向性</b></p> <p>○新歴史民俗資料館の整備については、事業内容を見直し、市民ニーズに沿った市の振興につながる施設となるよう、また、将来の財政負担や利用見込み等総合的要素を勘案した施設となるよう検討していく。</p>	3	B	文化財課

No	分類			目 標
	大	中	小	
35	7	R	史跡等整備 工事、説明 板・誘導サイ ン設置 中津城イベ ント実施	<p>旧市内の古代ゾーンや名勝耶馬溪内の文化財（羅漢寺・耶馬三名橋・中世城館）など、市内には城下町以外にも多くの魅力的な文化財がある。しかし、市民周知が十分とはいえず、整備活用もほとんど行われていない現状であり、古代ゾーンや名勝耶馬溪に点在する文化財の価値の顕在化と周知に努め、整備活用に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○沖代条里をはじめとした古代ゾーン全体の価値の周知に努め、今後の整備活用の方針を決める。</li> <li>○羅漢寺の展示を行い魅力発信に努め、将来の史跡整備を見据えた調査研究を行う。</li> <li>○耶馬溪平田地区周辺の整備活用のマスタープランを作成し、馬溪橋・平田城などの整備を進める。</li> </ul>
36	8	S	スポーツ施 設の計画的 な整備	<p>中津市ではスポーツ施設の老朽化が著しく、「スポーツ振興」、「スポーツ観光」を促進する上でスポーツ環境の一層の整備が望まれており、中津市スポーツ振興基本計画で把握したスポーツ施設の状況を踏まえ、計画的に順次整備を行っていく。 また、急を要する改修については早急に対処していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各施設の状況を把握し、施設を利用するうえで支障を来たしているものや、対処が必要なものについては早急に改善していく。 また、中津市の施策に沿って施設整備を進める。</li> </ul>

達成状況	自己評価	総合評価	所管課
<p>○古代ゾーンでは、長者屋敷官衙遺跡の実施設計を作成した。また沖代条里は、シンポジウムを開催した。また地権者アンケートを行ったり、市民や有識者からなる保存検討委員会を立ち上げた。土水路保存は、九大の先生方や地元とともに検討を重ねている。羅漢寺は県立博物館での特別展に、積極的に展示協力を行った。耶馬溪平田地区周辺のマスタープランの作成は市内全体での取り組みに発展し、12月にマスタープランを完成することができた。馬溪橋・平田城跡の整備は国庫補助事業で行い、案内看板を新たに市内5か所に設置した。</p> <p><b>課題及び来年度に向けての方向性</b></p> <p>○沖代条里は地権者の要望もあり、中津市として今後の方針決定を急ぐ必要がある。28年度は耶馬溪が日本新三景に選定されて100周年となることから、さらなる耶馬溪地方の魅力発信が求められている。</p>	3	B	文化財課
<p>○ダイハツ九州スタジアム（大貞総合運動公園野球場）が完成し、平成27年6月より供用開始を行うことができた。</p> <p>○シーズン中は多くの方に利用されスポーツ施設の充実による市民の健康づくりに寄与することができた。</p> <p><b>課題及び来年度に向けての方向性</b></p> <p>○今後計画していくスポーツ施設については、市民ニーズに沿った市の振興につながる施設となるよう、また、将来の財政負担や利用見込み等総合的要素を勘案した施設となるよう検討していく。</p>	4	B	体育・給食課

No	分類			目 標
	大	中	小	
37	8	S	スポーツ施設の利用促進	<p>合併後において、各地域にはスポーツ施設が点在しているが、利用者のニーズに沿った、誰もが気軽に利用できる施設の整備がなされていない状況にある。利用度の高い施設については、休館日等の見直しを行ったが、全体的には利用形態や料金形態も含めて今後検討が必要であり、本年度は施設利用満足度を高め、利便性の向上を図る。</p> <p>○誰もが、どこでも、安全に、安心してスポーツに親しむことのできる環境づくりの為、日常の安全管理を強化する。また、スポーツイベントなどを誘致して、スポーツの面白さや楽しさを伝えることで、市民のスポーツの推進につなげ、延いては施設の利用促進につなげる。</p>
38	8	T	生涯スポーツの推進	<p>小学生はスポーツをしたくても地域や近隣にクラブがない、中学生は学校の部活が少なくなるなど、スポーツの環境や選択肢が狭まってきた。大人についても身体を動かすことのできる場所や環境が身近にないことなどから、日常的にスポーツを行っている人が少なくなっている。</p> <p>そこで、大人から子供まで加入することができ、色々なスポーツを選べる総合型地域スポーツクラブの創設に向けて取り組む。</p> <p>また、様々なスポーツイベントを開催し、スポーツに触れ合える機会を増やし、定住自立圏域住民のスポーツ振興を図る。</p> <p>○5月の最終水曜日を「健康づくりの日」として施設の開放を行い、市民の健康づくりをサポートする。</p> <p>○市内の体育施設を利用して、色々な大会、スポーツを誘致し、身近にスポーツと接する機会を増やす。今年度もオリンピックデーランを開催し、定住圏域住民を含め広く誰もが参加できるスポーツイベントとして開催する。</p>

達成状況	自己評価	総合評価	所管課
<p>○利用者のニーズを踏まえ、利用頻度の高い施設は年末年始を除く休館日の廃止を行いました。旧中津市と三光地区の全体育施設の予約状況をホームページで確認が出来るシステムを導入をした。またダイハツ九州アリーナのトレーニングルームにおいてはスポーツ振興くじ助成金（t o t o）を活用して市民からの要望が高かったランニングマシンの更新を行い、施設利用の満足度を高め利便性の向上を図る事が出来た。</p> <p><b>課題及び来年度に向けての方向性</b></p> <p>○平成 28 年度から禅海ふれあい広場の木曜休館日の廃止により、市民の立場に沿った施設運営をすることで生涯スポーツの裾野を広げる推進を図っていく。今後も、引き続き各種全国大会や九州大会レベルの規模の大きな大会や、それに伴うスポーツ合宿を誘致し、各施設を有効利用することで「スポーツ振興」「スポーツ観光」を行い、地域の活性化に繋げていく。また、今後も利用者ニーズに沿った施設運営に努めていく。</p>	4	B	体育・給食課
<p>○新たな総合型地域スポーツクラブ創設については、協議をしているがなかなか創設までは進んでいない状況である。</p> <p>○スポーツイベントについては、オリンピックデーラン等の開催や市民体育祭の後援をすることで多数の市民の参加が得られたことや、市内各地で開催するマラソン大会にも今年も多くの中津市内外の出場者があり生涯スポーツの推進が図られた。</p> <p>○八面山平和マラソン参加者数 940 人  オリンピックデーラン参加者数 836 人  諭吉の里「なかつ」ハーフマラソン参加者数 1,130 人</p> <p><b>課題及び来年度に向けての方向性</b></p> <p>○総合型地域スポーツクラブの創設に向け、県の指導を受けながら学校や地域などと協議を進めていく。また、既存の総合型地域スポーツクラブ「洞門元気クラブ」についても、NPO法人となっているがクラブ運営のサポートについての協議を今後もしていく。イベントについては、引き続き、更に多くの市民を対象とした気軽に参加しやすいイベントを開催する計画を考える必要がある。</p>	4	B	体育・給食課

No	分類			目 標
	大	中	小	
39	8	U	学校保健・体育環境の充実	<p>児童生徒及び教職員の健康の保持増進を図るため、健康診断の完全実施及び事後指導の充実を図る。</p> <p>また、学校環境の調査点検と改善を行い、衛生環境の維持に努め、学校敷地内禁煙の徹底を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○教職員の健康診断の完全実施、要精密等の受診率を向上させる。</li> <li>○教職員ストレス診断システム実施率を上げる。</li> <li>○学校環境の点検と改善を関係課と連携して実施する。</li> <li>○学校敷地内禁煙の保護者及び地域への周知徹底を行う。</li> </ul>
40	9	V	生産者(団体)との連携	<p>地場産野菜の利用推進のため、学校給食地産地消推進会議を開催して生産者等と協議を行っており、三光地域の生産者組合が生産した地場産野菜を、J Aを通じ各調理場に納入している。また、旧下毛地域においては、一部の野菜を福祉施設や小規模農家と契約して直接、納入している。</p> <p>今後もJ Aや漁協と連携を密にして地場産野菜等の品目と使用量を拡大する。</p> <p>また、新たな生産者組織や後継者の育成等を関係機関と協議する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○学校給食地産地消推進会議を通じて、農政水産担当部署、J A、漁協、生産者等と地場産食材の利用拡大に取り組み、生産者の育成等に関する協議の場とする。</li> <li>○地場産食材を活用した新献立を検討する。</li> <li>○地場生産者が不在となった本耶馬溪調理場管内の新たな野菜生産者又は地場産納入業者を探す。</li> </ul>

達成状況	自己評価	総合評価	所管課
<p>○児童・生徒の健康診断は適切に実施できた。</p> <p>○教職員の健康診断は、100%（対象者 539 名）実施できた。要精密等の受診率も向上した。また、健診項目を増やすことで、さらに充実した。（該当者 200 名のうち 200 名が再受診済み （H25：87.7%→H26：89.8%→H27：100%）</p> <p>○学校環境の整備は、学校職員衛生委員会などの意見を踏まえるなどして充実が図れてきた。</p> <p>○敷地内禁煙の周知徹底はできた。</p> <p><b>課題及び来年度に向けての方向性</b></p> <p>○むし歯予防の推進（歯みがき指導・食育指導・フッ化物洗口）を図る。 →三郷小での学校フッ化物洗口実施</p> <p>○校長会などを通じて教職員健康診断及び要精密検査再受診について周知徹底し引き続き 100%実施を目指す。 さらに、教職員の健康診断項目のより一層の充実を図る。</p> <p>○学校環境についても教育総務課と連携を取りながら、学校運営上必要な点については早急に実施する。</p> <p>○メンタル病休者早期発見・対応を目指し、教職員ストレス診断システム実施率 100%達成に取り組む。 →学校心理アドバイザーの活用</p> <p>○教職員の健康の保持及び健康管理対策として長時間勤務調査を年間を通じて実施し、希望により産業医面接を実施するなど健康対策の充実を図りたい。また、教職員における年次有給休暇取得促進の取り組みを実施することで教職員のストレス軽減と体調管理につなげる。</p> <p>○要精密等の受診率を向上させる。（引き続き 100%の再受診率）</p>	4	B	学校教育課
<p>○平成 27 年度は、林政課より猪鹿肉の利用促進のため地産地消推進会議への参加要望があり、参加を認めて協議を行った。後日、実際に猪鹿肉を使用した給食試食会を実施するなど、これまで以上に生産者等との結びつきを深めることが出来た。地元産野菜の利用率については、平成 26 年度 23%に対して平成 27 年度は天候に左右される結果となり、18%に減少した。本耶馬溪地区の地場納入業者については 1 事業者と今後について協議を行うことが出来た。</p> <p><b>課題及び来年度に向けての方向性</b></p> <p>○生産者の高齢化や後継者不足により、地産地消の取り組みは今後困難となってくることが予想される。特に現在、本耶馬溪から山国地域への地元産食材の配送の問題があり、配送方法や配送料の食材費への上乗せなどが上げられている。一方では、農家のために食材を大量消費可能な学校給食への要求は年々高まっているので農政担当との連携でより効率よく、各方面のニーズにこたえられる体制を整えることが必要になってくると思われる。</p>	4	B	体育・給食課

No	分類			目 標
	大	中	小	
41	9	W	児童生徒、保護者への啓発	<p>学校栄養職員や栄養教諭を中心に、学校給食担当職員が協力して学校の給食時間等を利用して給食指導を実施している。また、毎年1月の給食月間に講師を招いて保護者等を対象に記念講演会を開催している。</p> <p>引続き、学校の年間指導計画に基づき、食の重要性について学校と調理場が連携して給食指導を行っていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○学校栄養職員や栄養教諭を中心に、民間委託事業者等とも協力しながら出来るだけ多くの学校を訪問し、子供たちに分かりやすく食の重要性等を説明することで残菜の量が減るように指導する。</li> <li>○保護者に対して、試食会やPTA活動の場を通じてなど、様々な機会を利用して食育を推進する。</li> </ul>
42	9	X	調理場機械・器具等の更新	<p>第一共同調理場(平成7年建築 平成26年に設備を全面改修)、三光共同調理場(平成14年建築)、本耶馬溪共同調理場(平成12年建築)、山国共同調理場(平成14年建築)の4つの共同調理場があり、すべて衛生的なドライシステムで運用されている。また、第一共同調理場を除く3つの調理場は、一部機械設備は耐用年数を経過し、更新が必要であることから、計画的に設備更新等が行えるように実態の把握に努め、今後の計画を策定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○調理場の機械設備等の現状を確認し、更新が必要と思われるものを中期実施計画に計上する。</li> <li>○業務の効率化を図るため、設備操作等の研修会を適宜実施する。</li> </ul>

達成状況	自己評価	総合評価	所管課
<p>○栄養教諭が中心となって調理場職員や民間委託事業者と連携しながら、ふれあい給食を実施するなど食育に取り組むことができた。また、学校給食運営審議会の保護者会の学期ごとの行事において、地産地消の取り組みや早寝、早起き、朝ごはんについてなど説明をすることが出来た。1月の給食月間記念講演会では、テーブルマナーをテーマに多くの出席者に聴講いただいた。</p> <p><b>課題及び来年度に向けての方向性</b></p> <p>○栄養教諭の配置等により、食育は年々充実してきていると思われるが、一方で食物アレルギーなどにより食べたくても食べられない児童生徒が増加する傾向にあり、みんなで一緒に同じ給食を食べることが困難となってきている。調理場の設備面でアレルギー対応等が出来ないので、アレルゲンを含まない食材を活用できるように引き続き努力する必要がある。</p>	4	B	体育・給食課
<p>○繰越事業となっていた本耶馬溪共同調理場のボイラー改修工事を給食に支障が無いよう予定通り更新することが出来た。また、幼稚園給食開始や来年度以降の食数増加を見込み、一部幼稚園の調理・配送を三光共同調理場で行うように計画し、これに伴う設備改修等について中期実施計画や当初予算等に反映することが出来た。</p> <p><b>課題及び来年度に向けての方向性</b></p> <p>○第一共同調理場を除き、三光・本耶馬溪・山国共同調理場管内の児童生徒数の減少に伴い効率のよい給食の実施が困難となってきている。必要に応じて、調理場ごとに食数に見合うよう給食受配校の見直しを行い、費用対効果を考慮しつつ今後も効率的な設備等の改修を検討する必要がある。</p>	4	B	体育・給食課

### Ⅲ 学識経験を有する者の知見

大分大学COC+推進機構 特任教授 中川忠宣

はじめに

「戦後教育」を推進してきた日本の教育は、近年では、平成2年の生涯学習振興法の制定によって、国民主体の教育の推進という新たな方向性が示されたことによって、学校教育及び社会教育の上位概念として明確化された生涯学習という理念を基盤においた教育活動の展開が始まりました。しかし、文部科学省が指摘している、①子どもの学力、規範意識、青少年の自然体験、読書活動等の教育の目標の実現、②社会人の学習環境、学習成果の評価等の生涯学び続けることができる社会の実現、をはじめとして、教育の機会均等、信頼される学校教育の確立、家庭教育支援、幼児期の教育、社会教育、学校・家庭・地域の連携協力等の多くの課題を抱えて、各自治体は日々の教育行政を推進しています。教育行政の役割は、学校、社会、家庭のそれぞれの教育機能を向上させるための施策を通して指導・支援することであり、その成果は学校、社会、家庭のそれぞれが出ていくものだと考えられます。そうした中、平成17年に大分県が制定した「おおいた教育の条例」や、国では平成18年に「教育基本法」を改正するなど、教育行政の新たな方針を示してきたと言えます。

今回、平成27年度の施策に関して点検・評価を行うに当たって、こうした教育の方向性を見据えつつ、中津市の教育施策の成果と今後への期待について意見を述べることにしました。

#### 【総評】

今回の点検・評価については、教育行政の担当者が重点施策への取り組みを計画的に実施しており、自己評価及び総合評価による点検・評価の内容は適切であると考えます。各施策が教育の推進にとって重要であり、継続的な施策を年次計画で実施している事業、現代的な課題に緊急に対応することが求められる事業等が適切に計画され、その事業成果を上げていると評価でき、具体的な数値等がそのことを裏付けていると考えられます。また、努力の成果が表れなかった取り組み、予算等の関係で次年時以降に持ち越された事業等についても自己評価がなされており、平成28年度以降の具体的な取り組みの充実を期待します。

教育委員会は生涯学習、教育、文化、スポーツ等の幅広い施策を展開する役割を担うことから、学校教育に偏らず、全ての市民を対象とした施策の検討と、教育委員会事務局への指示・指導及び全市民を対象とした情報収集と情報提供が求められます。よって、学校教育以外の教育を担当する、社会教育委員会を中心とした社会教育行政等との連携を進めるなどの更なる取り組みを期待します。

現在の子どもたちの教育課題は多岐にわたっており、学校教育のみでの対応は非常に難しい現状があります。子どもたちの課題の背景となる様々な要因は、家庭や地域社会の教育力の低下に起因するものは少なくありません。学校教育で担うべき教育内容は大きな比重を持っていますが、学校教育だけでは対応できない課題も多くあることから、教育活動全体の協働の推進を期待します。

## 【大分類ごとの点検・評価の概要】

教育の推進という観点から平成 27 年度の施策との関連、今後の教育行政として求められる施策の方向性等について述べるものとします。

### 1. 教育委員会の充実

教育委員会は、都道府県及び市町村等に置かれる合議制の執行機関であり、生涯学習、教育、文化、スポーツ等の幅広い施策を展開する役割を担っています。また、政治的中立性の確保、継続性と安定性の確保、首長からの独立性等の意義や特性をもっており、そのために、教育委員会での定期的な協議は不可欠です。

本市においては、そうした基本的な役割を遂行するために教育委員会事務局からの様々な案件の聴取、幼稚園・小中学校への視察、各種組織との懇談、移動教育委員会の実施等による地域住民の願いに根差した教育行政のために、教育現場の現状把握に努めていることを評価できます。

平成 26 年に「地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律」が成立し、教育委員会制度が一部改革されたことに伴って、市長との教育総合会議を設けるなど、市行政と教育行政の一体化の方向性も見られます。こうした新しい方向性を生かして、教育委員会の役割を着実に執行していくことを期待します。

また、学校においては、学校評議員制度や学力向上会議を開催し、関係者の意見・要望を反映するシステムが機能していますが、課題も挙げられています。関係者の意見や要望をより有効にしていくことについて、教育委員会から学校への指導が求められます。

### 2. 施設設備（学校施設の安全・安心な環境整備）

非構造部材耐震化が、限られた予算の中で計画に従って行われ（小学校 1 校については平成 28 年度実施となり解消見込み。）、全ての事業が実施されていることや、空調設備設置については、トイレ改修を含んで市単独事業として整備するなど、市行政の積極性が評価できます。

学校は子どもたちにとって、最高に安全で安心な居場所ではなくではありません。危機管理を最優先するとともに、落ち着いて学べる快適な環境づくりも重要です。子どもたちは家庭において、空調環境や水洗トイレ、温水器等が備えつけられた「豊かな環境」で生活しています。「あまやかす環境整備」ではなく、「必要な環境づくり」の推進を期待します。

また、震災や洪水等への対応については重要な課題であり、教育基本計画に示されている「安全・安心な学校づくり」に関する点検・評価を確実に行うことが求められます。

### 3. 学びの基礎を培う学校教育（一人ひとりを大切にす教育）

国際化に対応できる人材育成の取り組みについては、授業での外国語教育をはじめ、市の施策としての国際理解教育事業や、授業外での地域の特性に合わせた特色ある教育活動が進められており、今後、全ての学校への広がり期待しています。そうした学校での外国語活動と、教育委員会が実施する短期留学事業との連動を図りながら進めるグローバル人材の育成に期待します。

幼稚園教育においては、保幼連携や幼小連携の重要性が指摘される中、その取り組みが行われていることは評価できます。特に幼稚園における預かり保育の実施は、保護者への子育て支援として

有効な取り組みであり、このことを進めることによって入学前教育の充実も期待できると考えます。

預かり保育の体制づくりには、安全確保を含めた様々な条件整備が求められると考えます。こうした保幼小中の円滑な接続を図る具体的な取り組みが、小1プロブレムの発生を抑え、中1ギャップを解消する方策として有効であると考えられており、教育委員会の主導によって推進されることを期待します。

生徒指導の3つの「自己決定の場を与える」「自己存在感を与える」「共感的な人間関係を育成する」という機能を生かした授業改善の取り組みは効果が大きいとされており、その推進を期待します。一人の教員が全ての科目で、全ての時間にこのことを実施することは不可能なので、効果的な指導法を明確にして、一部の教員がモデル的に実施する段階を超えて、小中学校の連続性が重要であることも含めて、教職員研修等を通して全ての教員がその手法を学ぶような取り組みが望まれます。

また、特別に支援が必要とされる児童生徒への教育活動にも取り入れることが望まれ、現在配置されている教育補助員の研修内容にも取り入れることも必要となります。

こうした学校教育活動に加えて、学びのススメ塾による学びの機会づくりや、地域の教育資源の活用、情報教育の推進、豊かな人間性の育成等は、学力向上の基盤であり、生徒指導やいじめ問題への対応と直接に関係するものです。子どもの課題対応を学校教育のみに委ねるのではなく、「原因療法」の手段として、文部科学省が進める地域住民が関与する教育課程外の「土曜学習」等の発展を検討すること期待します。

#### 4. 学校と家庭の連携

現代の子どもの課題を見たときに、学校教育のみで解決できない課題が多くあります。その背景を詳しく見ると家庭教育に起因する課題、地域社会の教育力の低下によって起こると考えられる課題等が多くあります。こうしたことから、「親育」の重要性が指摘されていますが、家庭教育は「私的な教育」であり、その推進役となるPTAという組織がどう機能しているかが重要になります。また、目標協働達成校での着実な成果を上げており、そうした成果を市教育の財産として、全ての学校に拡大していく取り組みを期待します。

各家庭での教育機能は、家庭の事情等によって大きな差があります。出来る家庭もあれば出来ない家庭もあり、最初からやらない家庭もあります。そうした様々な現状があることを認識した上で、全ての子どもを健全に育成していく取り組みが求められます。「平日・休日の生活実態」の現状から見ても、全市で進める継続的で具体的なPTA活動を教職員と保護者が作り上げていくことが必要になります。

#### 5. 施設設備（その他の施設整備）

地域住民の社会活動と生涯学習の拠点となるコミュニティセンターの整備が計画的に進められていることは、市の中心部だけでなく、周辺地域のコミュニティの形成に非常に有効であると考えます。「集う場所」「学ぶ場所」の整備に加えて、今後は、今津コミュニティセンターを例に見るような、地域協議会的な組織作りと自主的な活動の広がりを推進することを期待します。

## 6. 学びつづける生涯学習（郷土に誇りを持つ市民）

中津市地域協育振興プラン推進事業は、公民館を核とした教育の協働を推進する大分県の施策を先導的に取り入れて、中津市独自の公民館運営体制を整備したこれまでの取り組みは非常に評価できます。子どもたちの幅広い学びを地域住民が支え、地域住民の社会貢献という生涯学習推進のシステムづくりを進めており、今津校区をモデルとして、多くの公民館（コミュニティセンター）がその機能を発揮していると感じます。そうした体制を基盤にして、放課後子ども教室（土曜教室、放課後チャレンジ教室）やワンパク！たんけん中津、なかつキッズ・サイエンス等の事業が継続・拡充されているとともに、北原人形芝居保存会による次世代への文化芸能の継承等の取り組みも行われており、今後とも、子どもたちと地域住民の双方の生涯学習の充実を図る取り組みを期待します。

こうした取り組みに不可欠な施策が、公民館（コミュニティセンター）事業の充実であり、地域住民が郷土「中津」の自然、動植物、歴史、昔話、偉人、文化等を学び、郷土に誇りを持つ施策は非常に評価できますので、今後の充実を期待します。

## 7. 文化芸術の香るまち（文化・芸術活動の推進）

市民の生涯学習を支援する大きな役割を担う図書館活動の充実は不可欠です。そのために開館時間を可能な限り延長した施策は重要であると評価できます。その他、学校図書館だよりの発行などの学校図書館活動との連動や、図書館電算システムの更新、ホームページ等による図書館情報の提供など、市民の利便性の向上を着実に進めていることも評価できます。

さらに、美術館や歴史民俗資料館の整備は、地域住民が郷土の文化芸術を学び、継承する活動へつながる施策であり、生涯学習を通して郷土に誇りを持つ市民の学びへの支援として重要であり、継続的な取り組みを期待します。

## 8. 健康づくり（生涯にわたるスポーツ振興「心豊かで健康な生活を」）

競技スポーツ・生涯スポーツの推進は、市民の健康づくりの支援として重要な施策であり、ハード面、ソフト面ともに着実な取り組みが進められています。特に、住民の利用度の高い体育施設の年末年始を除く休館日の廃止や、設備の充実等は住民の利用促進の有効な施策として評価できます。

今後は、施設設備の充実や、これまで実施してきたスポーツイベントの継続、子どもから大人までがいろいろなスポーツを楽しめる総合型地域スポーツクラブの創設を推進すること等を期待します。

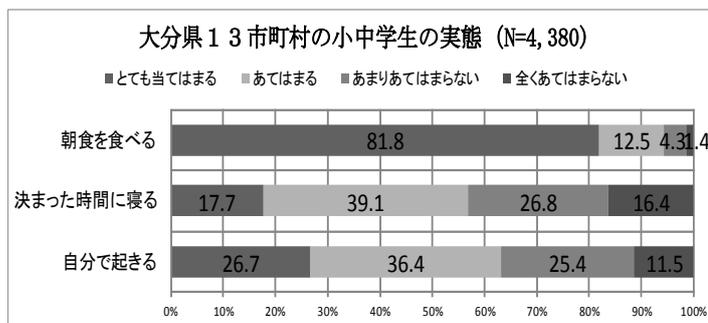
また、学校保健における健康診断の着実な実施等の取り組みについては、今後とも継続的な実施を望みます。

## 9. 健康な体づくり（安全安心でおいしい学校給食）

学校給食における地産地消の推進は、生産者の願い等も合わせて子どもたちへの給食指導ができることなどから、安全安心な食材による健康な体づくりにとって重要な取り組みとして推進されています。このことは、農業経営の活性化との関連もあることから、農業従事者やJA、農政担当部

局等との連携が不可欠であり、積極的な取り組みを期待します。

学校における給食指導とともに、家庭での「早寝・早起き・朝ごはん」の取り組みも重要です。図に示すように、大分県の小中学生を対象としたアンケート結果 (H20) では、94.3%は朝食を食べているがその内容の把握や、課題として見える就寝と起床についての改善の取り組みが求められます。



おわりに

中津市教育行政基本方針は、当該年度の継続的な重点施策と、当該年度や年次計画等の施策が方針として示されており、その成果を上げるための具体的な施策を点検・評価を確実にすることは極めて重要です。その観点からみると、本「中津市教育委員会施策の点検・評価」の項目はハード面が多くなっていることや、教育成果としての「～～に教育効果があった。」等の評価の内容が少ないことなどを感じます。

よって、当該年度の中津市教育行政基本方針との整合性を見やすく点検・評価をすることが、次年度の施策に有効に活かされることとなると考えられます。

#### IV おわりに

平成 21 年 3 月に策定した『中津市教育振興基本計画』においては、今後 10 年を通じて目指すべき教育の姿、基本構想として、次の目標を掲げています。

- ・ 自立する力を育て、社会で活躍できる人材の育成
- ・ いつでも どこでも 学べる環境作り

これら目標の実現に向けては、さらに以下の（１）から（４）の４項目の達成を図らなければなりません。

- （１）義務教育修了までに、責任ある社会の一員として自立していくための基礎となる、知、徳、体、食にコミュニケーションを加えたバランスのとれた力を育てます。
- （２）学校、家庭及び地域住民その他の関係者が、教育におけるそれぞれの役割と責任を自覚するとともに、相互の連携及び協力を図れる体制づくりを確立します。
- （３）誰もが生涯にわたり学ぶことができる環境を整備し、文化芸術活動やスポーツに親しむ機会を充実させます。
- （４）地域固有の文化・芸能の継承と保存整備に取り組みます。



自立する力



学習環境

平成 27 年度においては、9 項目を施策別基本目標として、42 項目を具体的な施策として取り組んできましたが、全体目標の達成に向けて効果的かつ着実に推進するためには、事業の点検とその結果のフィードバックが不可欠であり、今回の施策評価の過程においても、多くの課題が浮き彫りになりました。そのため、実施した施策について、計画（Plan）→実行（Do）→評価（Check）→改善（Action）の PDCA サイクルにより適応性や目標達成度、有効性の観点から自己点検・評価を行い、これを市民に公表し、市民の意見等の把握・反映に努め、次年度以降の進行管理を行っていきます。

